

診療科等のクリニカルインディケーター(CI)について

- ・平成28年4月1日から「消化器内科」を設置しました。
- ・平成29年4月1日から「第1内科」、「第2内科」、「第3内科」、「膠原病・感染症内科」、「消化器内科」の5診療科体制を「循環器内科」、「腎臓内科」、「肝臓内科」、「血液内科」、「神経内科」、「呼吸器内科」、「内分泌・代謝・糖尿病内科」、「膠原病・感染症内科」、「消化器内科」の9診療科体制に変更しました。
- ・令和3年4月1日から「肝臓内科」は「消化器内科」となりました。
- ・令和4年4月1日から「膠原病・感染症内科」は「膠原病内科」と「感染症内科」に分かれました。

第5部 診療科等活動実績

循環器内科

2. 大学病院特有項目： 心血管カテーテル治療件数

▶ 項目の解説

心臓を栄養している血管(冠動脈)の狭窄や下肢動脈の狭窄をバルーンで拡張したりステントと呼ばれる金属製の網状の管を留置したりする治療です。

▶ 定義

年間の延べ治療患者数です。

コメント

大学病院として様々な合併症を抱える虚血性疾患に対する治療はもちろん、近年は急性期治療にも注力し、迅速な救急患者受け入れを行っています。COVID19による制限のため一旦減じた症例数も、今後は増加傾向が見込まれ、患者背景に十分配慮した最適なカテーテル治療および術後の至適薬物療法を提供できるよう努めています。

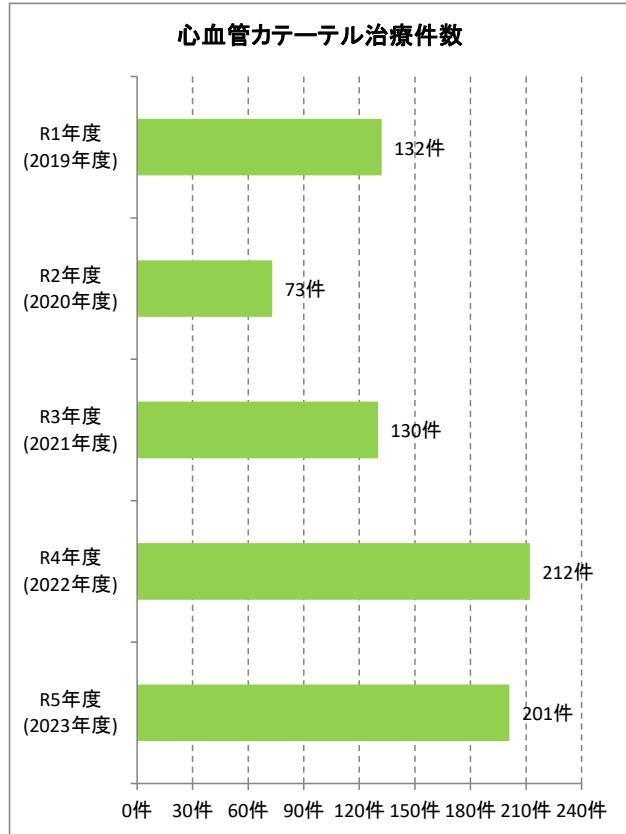
算式

延べ患者数

単位

件

心血管カテーテル治療件数



心臓カテーテルアブレーション治療件数

▶ 項目の解説

カテーテルアブレーション(心筋焼灼術)治療は、局所麻酔下でカテーテルという直径2mm位の管を心臓内まで挿入し、不整脈のもととなる異常な部分に高周波電流にて焼灼を行う手術です。

▶ 定義

年間の延べ治療患者数です。

コメント

当科では宮崎県および鹿児島県の幅広い地域から多種にわたる不整脈疾患を紹介して頂いています。最近では合併疾患を持った患者に対するアブレーションや難治性の心室頻拍への治療も行います。

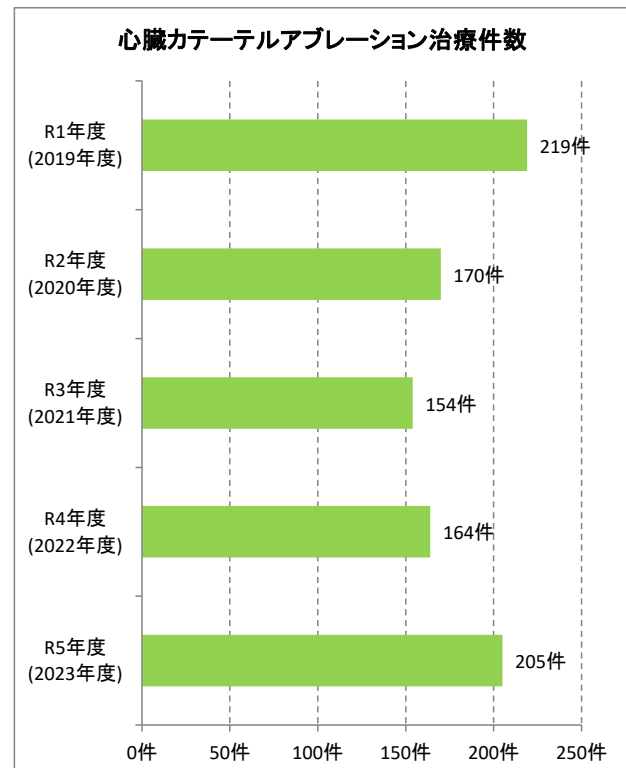
算式

延べ患者数

単位

件

心臓カテーテルアブレーション治療件数



ICDおよびCRT-D 植込み術

▶項目の解説

ICDは致死性の不整脈(心室頻拍、心室拍動)を治療する植込み型除細動器であり、CRT-Dは通常のペースメーカー機能に加え、心不全治療機能の心臓再同期療法(CRT)とICDの機能を搭載した植込み型の治療機器です。

▶定義

年間の延べ治療患者数です。

コメント

宮崎県内でも本治療を施行し得る施設は少ないのですが、ICD及びCRT-D植込み術の適応患者は年々増加傾向にあります。当科では、カテーテルアブレーション治療と同様に複数の病気を合併した患者さんにも治療を行います。

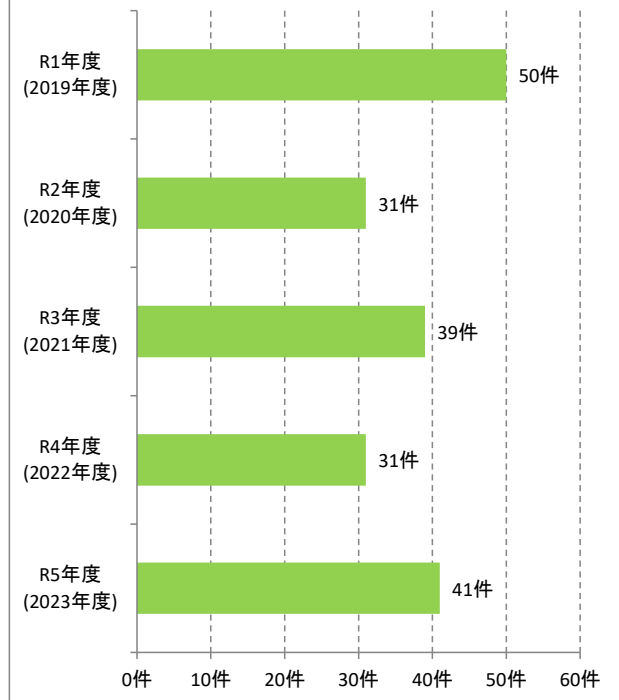
算式

延べ患者数

単位

件

ICDおよびCRT-D 植込み術



1. 一般的項目:

腎生検数

▶ 項目の解説

経皮的に腎臓の一部を生検針にて採取する検査です。

▶ 定義

1年度あたりの数です。

コメント

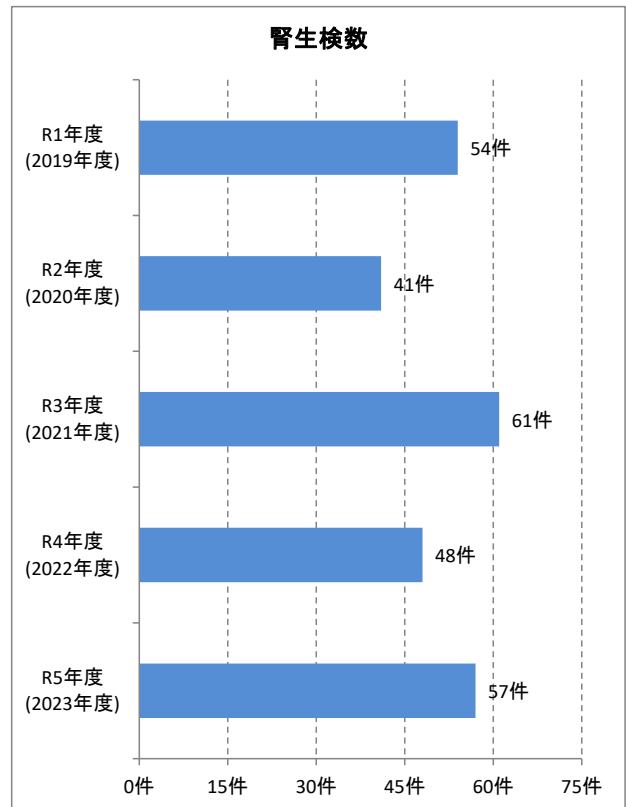
腎臓疾患をできるだけ正確に診断する手段です。それに基づき、各患者に合った治療方法の選択が可能となります。ここ数年、他院からの紹介数も増加してきております。

算式

延べ件数

単位

件



2. 大学病院特有項目:

難治性腎疾患に対するアフェレシス療法

▶ 項目の解説

難治性の腎炎(ANCA関連血管炎を含む)・ネフローゼ症候群に対して、血中から人体に有害な物質を体外へ除去し、重篤な病態の改善を図る治療法です。

▶ 定義

1年度あたりの数です。

コメント

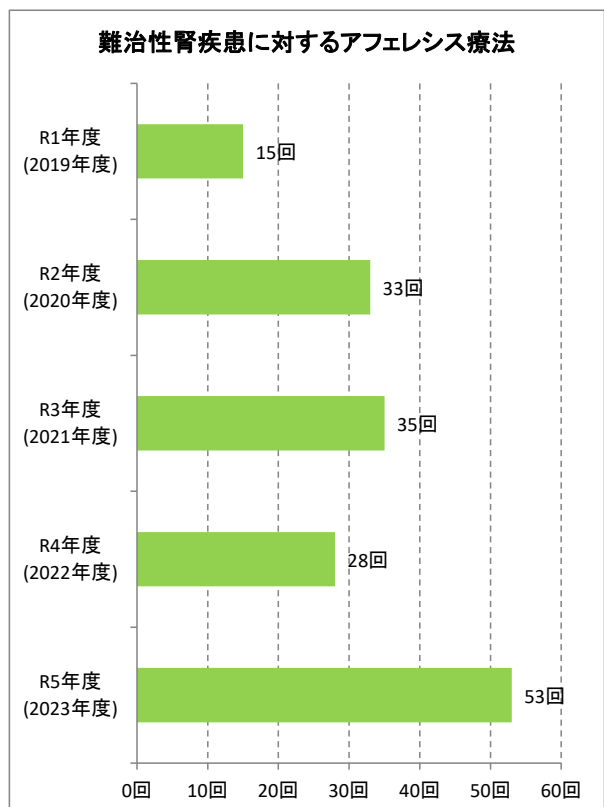
通常の内服治療のみでは改善の得られない難治性腎疾患において用いられる体外循環療法(血液を体外に出し、有害な物質を除いて体内に戻す)です。他院からの紹介も多くなってきており、適応疾患も拡大してきております。

算式

延べ回数

単位

回



1. 一般的項目:

造血器悪性腫瘍に対する化学療法の症例数

▶ 項目の解説

血液内科では白血病や悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器悪性腫瘍に対し、化学療法、分子標的療法、自己末梢血幹細胞移植、同種造血幹細胞移植を行っています。南九州地域の施設であり、成人T細胞白血病/リンパ腫(ATL)の患者の比率が他地域より多いのが特徴です。

▶ 定義

年間の造血器悪性腫瘍に対する化学療法の症例数

コメント

造血器悪性腫瘍に対する二重特異抗体製剤やキメラ抗原受容体T細胞療法を含む新規薬剤により造血器悪性腫瘍の診療は大きく進歩しています。その一方で治療の複雑化により集学的な治療が必要になっています。中核施設として県内の施設からの受け入れを積極的に行っているため、今後は症例数の拡大を見込んでいます。

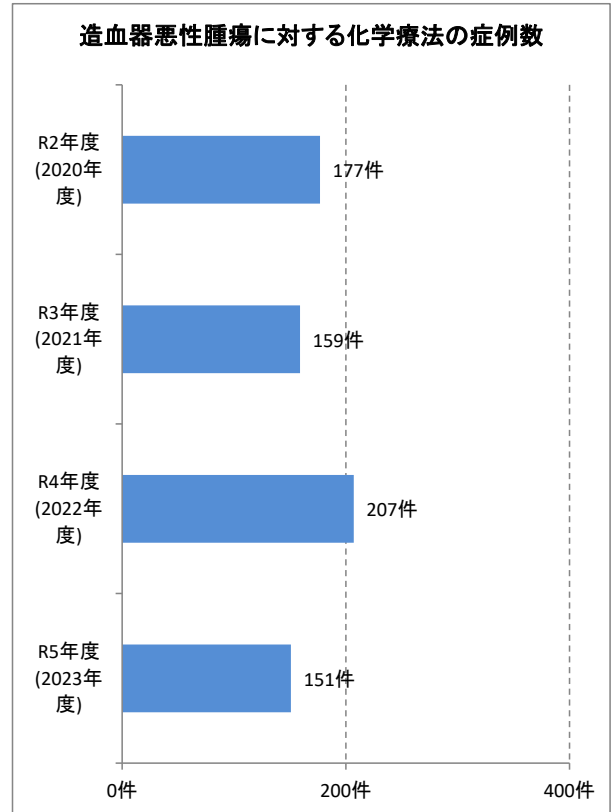
算式

造血器悪性腫瘍に対する
化学療法の症例数

単位

件

造血器悪性腫瘍に対する化学療法の症例数



2. 大学病院特有項目:

造血幹細胞移植症例数

▶ 項目の解説

同種造血幹細胞移植については、近年血縁者のHLA半合致(ハプロ)移植や、さい帯血移植といった骨髄バンク以外の幹細胞ソースの活用が進んでおり、移植適応患者が増加しています。

▶ 定義

年間の造血幹細胞移植症例数

コメント

宮崎大学血液内科では日本造血・免疫細胞療法学会の移植認定施設となった2014年以降、年間20-30例の造血幹細胞移植を行い、経験と実績を積み重ねております。移植後合併症の管理技術や支持療法の進歩により移植適応が拡大し、移植件数は拡大する見込みです。

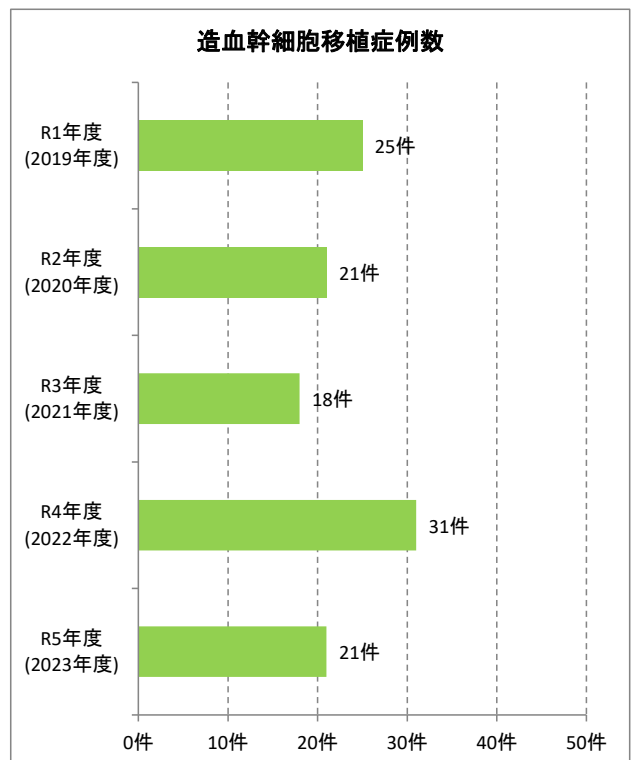
算式

造血幹細胞
移植症例数

単位

件

造血幹細胞移植症例数



1. 一般的項目： 中枢神経感染症治療

▶ 項目の解説

緊急を要する脳炎や髄膜炎などの中枢神経感染症の救急患者受け入れ実績で、早期診断・治療開始を行います。

▶ 定義

年間の延べ治療患者数です。

コメント

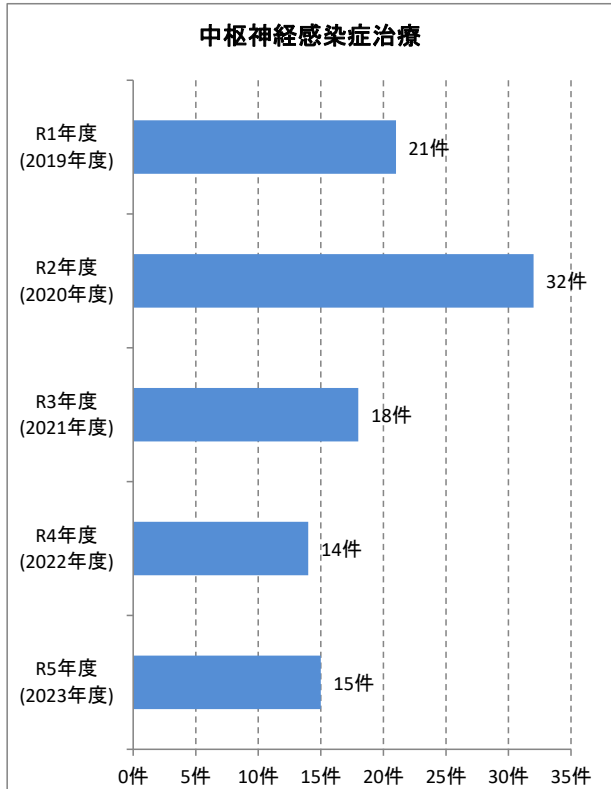
神経内科救急患者を県内各地から受け入れております。中枢神経感染症は特に緊急性が高く、早期診断・治療が行えるように対応しています。

算式

件数

単位

件



2. 大学病院特有項目： 筋疾患における病理学的診断

▶ 項目の解説

筋疾患は筋病理学的診断が必要な疾患が多いため、当科では筋生検を行って最終的な診断を行っております。

▶ 定義

年間の筋生検件数です。

コメント

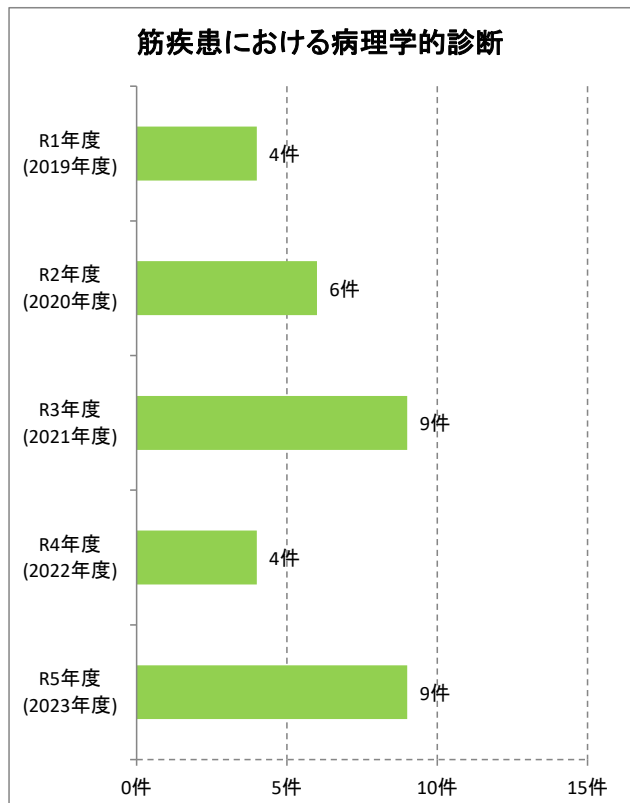
県内では筋生検の可能な施設に限られるため、多くの施設からの診断依頼を受けており、毎年一定数の検査を行っております。

算式

件数

単位

件



1. 一般的項目： 肺癌治療成績

▶ 項目の解説

呼吸器疾患の多くを占める肺がん患者の治療件数は、診療体制の充実度を評価します。

▶ 定義

年間の肺癌化学療法導入数です。

コメント

年によって多寡はありますが、肺癌の治療導入数は年間80-90例と一定数を維持しています。COVID-19流行期の2020年度・2021年度でも、肺癌患者数は減少しないためか、治療成績も減少せず、維持しています。

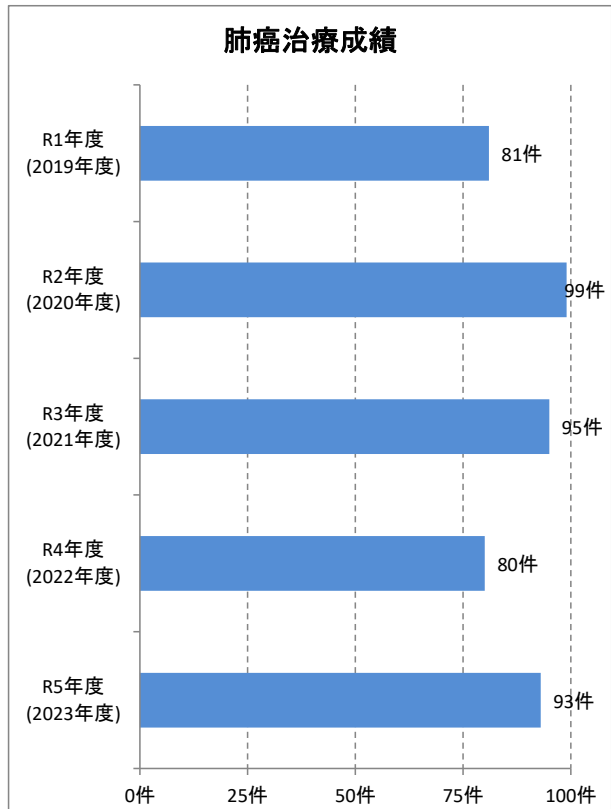
算式

肺癌化学療法レジメン数
(同レジメンを除く) +
分子標的薬新規処方数

単位

件

肺癌治療成績



2. 大学病院特有項目： 超音波気管支鏡下針生検 (EBUS-TBNA)

▶ 項目の解説

縦隔リンパ節を気管支鏡にて生検することができます。肺癌のリンパ節転移や、サルコイドーシス、悪性リンパ腫の診断に有用な検査です。

▶ 定義

超音波気管支鏡下針生検 (EBUS-TBNA) の延べ検査数です。

コメント

県内で対応できる病院が少なく、県内各地から患者様が来院されます。COVID-19流行期の2020年度・2021年度では、リンパ節転移のある肺癌患者は上記の通り減少していませんが、サルコイドーシス等の良性腫瘍に対する検査数が減少しました。

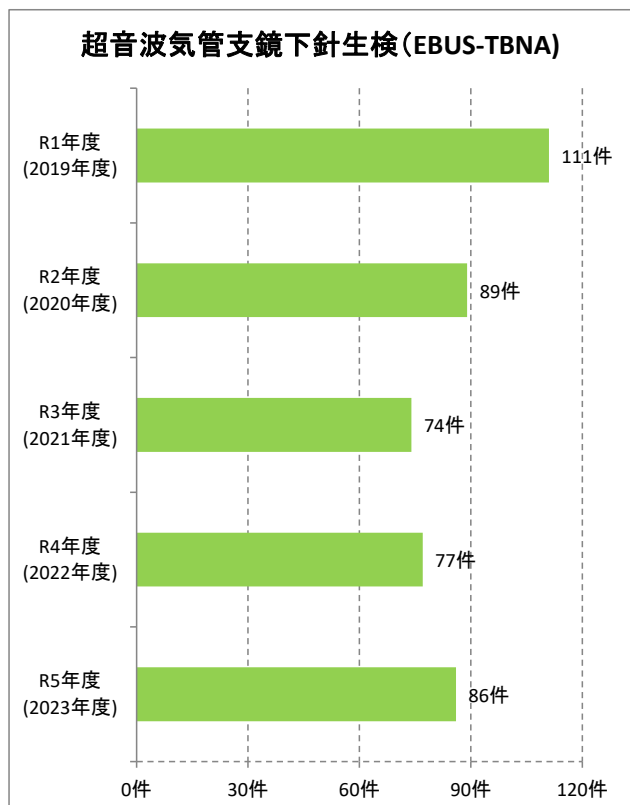
算式

延検査数
(気管支鏡検査のうち、
EBUS-TBNAを施行した数)

単位

件

超音波気管支鏡下針生検 (EBUS-TBNA)



1. 一般的項目： 入院して精査加療を行った糖尿病症例

▶ 項目の解説

糖尿病性ケトアシドーシスなど急性代謝失調の治療、術前血糖管理、糖尿病教育のために入院のにて加療している。

▶ 定義

入院加療を必要とした糖尿病症例数

コメント

糖尿病薬の進歩とCDEJ(日本糖尿病療養指導士)を含めたチーム医療により外来インスリン導入が可能であることが、入院症例数が横ばいである要因と考えられる。

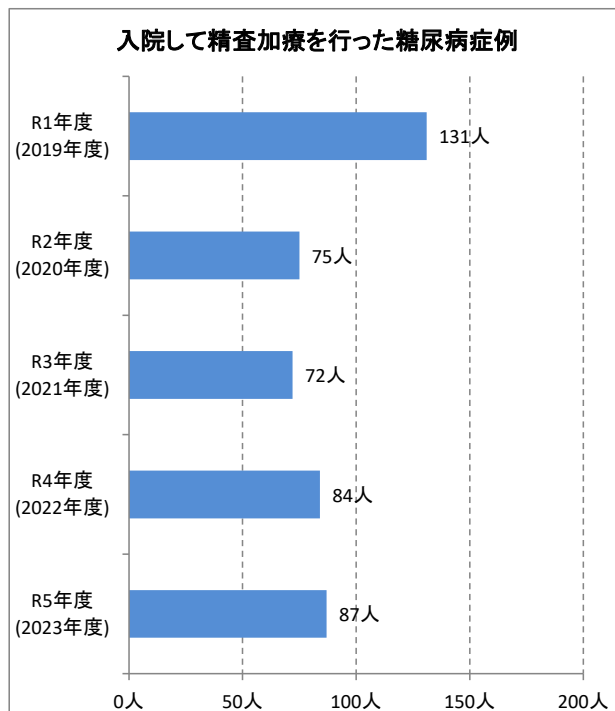
算式

1型糖尿病、2型糖尿病、糖尿病を病名に有する患者数を重複を避けて検索

単位

人

入院して精査加療を行った糖尿病症例



2. 大学病院特有項目： 下垂体疾患患者の内分泌学的評価

▶ 項目の解説

内分泌負荷試験を中心に、下垂体疾患の術前・術後の内分泌学的評価は短期入院で評価している。脳神経外科と診療連携により、スムーズな術前・術後の内分泌学的管理が行われている。

▶ 定義

脳神経外科での下垂体疾患患者手術症例の増加に伴い、症例数は年々増加傾向にある。

コメント

脳神経外科での下垂体疾患患者手術症例の増加に伴い、症例数は年々増加している。

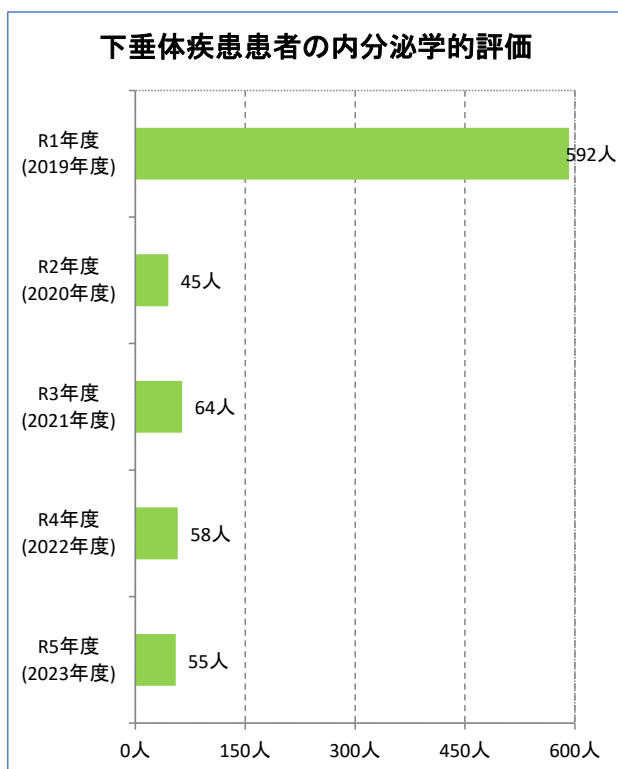
算式

下垂体、尿崩症、成長ホルモンなどの下垂体関連病名を有する患者数を重複を避けて検索

単位

人

下垂体疾患患者の内分泌学的評価



1. 一般的項目： 年間の特定疾患の新規申請数

▶ 項目の解説

当科が担当する膠原病には、いわゆる指定難病＝難治性疾患克服研究事業として厚生労働省が指定する疾患が多く含まれます。この疾患の当科における新規発症数を把握することができます。

▶ 定義

当科で該当疾患の臨床調査個人票を新規発行した件数です。

コメント

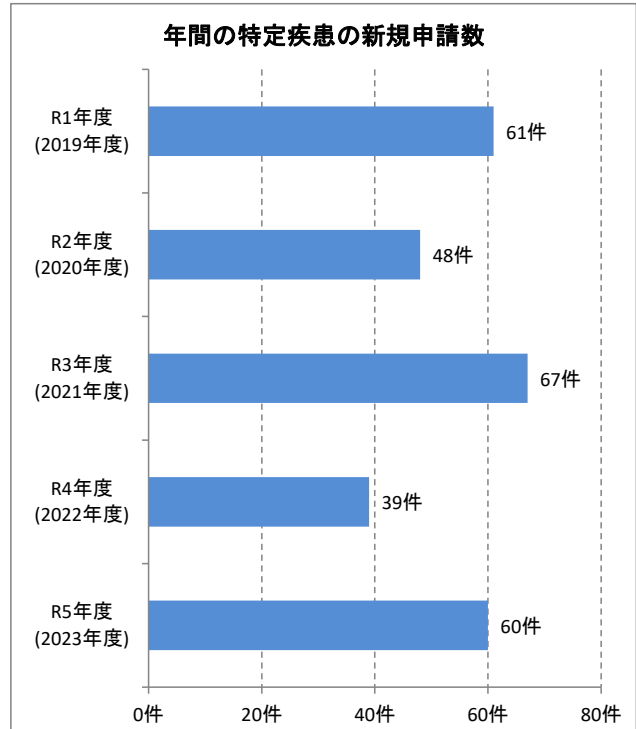
膠原病指定難病の新規診断症例数は、県内各地からの紹介もあり徐々に増加しております。

算式

件数

単位

件



2. 大学病院特有項目： 不明熱患者における、診療の始まりから診断確定までの日数

▶ 項目の解説

当科では原因不明の発熱の原因検索を請け負うことが多く、診断までにかかる日数から、診断能力と診断機器の性能の向上の程度を推し量ることができます。

▶ 定義

入院日より診断確定までの日数です。診断確定日は、治療を開始した日か、原因不明のまま退院となった日のこととする。

コメント

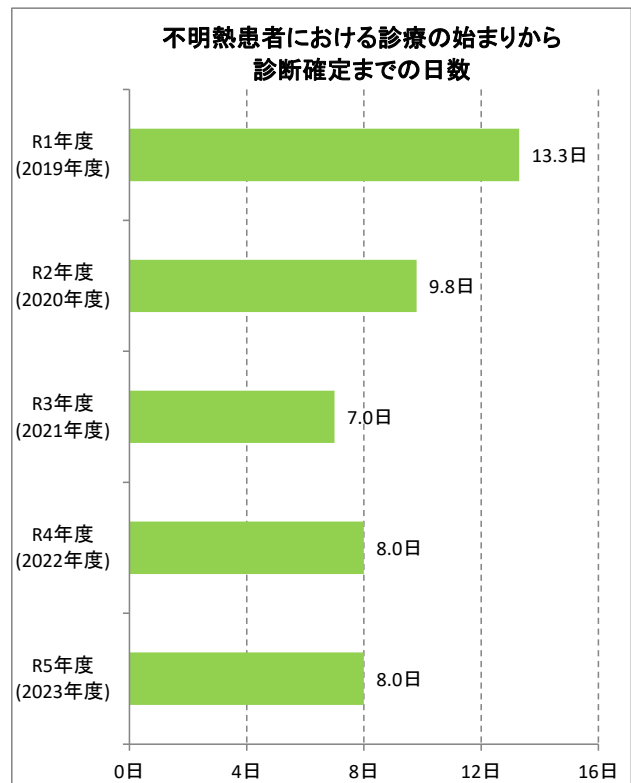
不明熱は膠原病のほか、感染症・悪性腫瘍の診断がつくこともあり、他科に専門治療などご紹介させていただいております。診断までの日数は年度により変動がありますが、各種検査の向上や各科との連携により、徐々に短縮傾向にあります。

算式

日数

単位

日



感染症内科

1. 一般的項目： 感染症の診断/治療に関する相談及び血液培養陽性例に対し働きかけを行った件数

▶ 項目の解説

院内の各診療科で治療に難渋している感染症についてコンサルテーションを受け、共同診療、診療支援に取り組んでいます。また、感染制御部と連携して、抗菌薬適正使用の推進をはかるため、血液培養陽性患者の状況を把握しており、必要に応じて働きかけを行っています。

▶ 定義

年間の相談及び働きかけを行った件数

コメント

R4年度(2022年度)より感染症内科が設立され、感染症の診断や治療に関する相談件数がより増加傾向にあります。今後も患者さんの治療成績向上につながるよう努力していきます。また、抗菌薬適正使用の推進にも力を注いでいきたいと考えています。

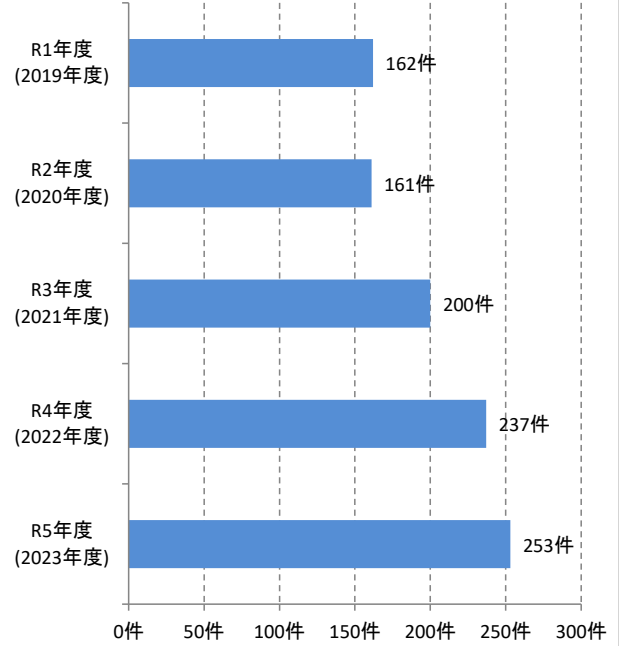
算式

件数

単位

件

感染症の診断/治療に関する相談及び血液培養陽性例に対し働きかけを行った件数



2. 大学病院特有項目： HIV/AIDSの症例数

▶ 項目の解説

エイズ治療拠点病院として、HIV感染症及びエイズ患者の診療を行っています。

▶ 定義

年間の患者数

コメント

HIV感染症およびエイズ患者の予後が改善するに伴い、感染者の累積的な増加が考えられます。

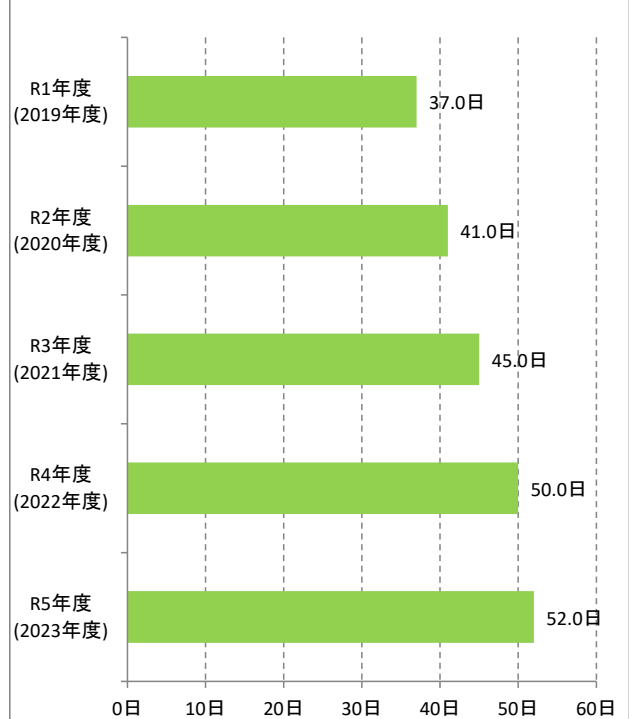
算式

患者数

単位

人

HIV/AIDSの症例数



消化器内科

1. 一般的項目： 上下部消化管内視鏡検査件数

▶ 項目の解説

食道・胃・十二指腸および大腸に対する内視鏡検査です。

▶ 定義

年間の検査件数です。

コメント

悪性疾患から炎症性疾患まで幅広い内視鏡診療を行っております。治療を前提として狭帯域光観察(Narrow Band Imaging;NBI)、拡大内視鏡、超音波内視鏡なども行い、経験を生かした精度の高い精査を行っております。

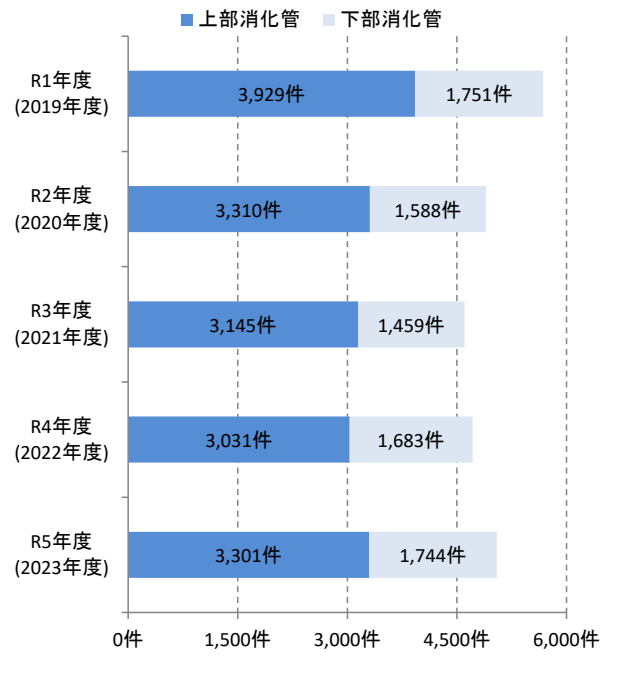
算式

延べ件数

単位

件

上下部消化管内視鏡検査件数



小腸内視鏡検査件数

▶ 項目の解説

ダブルバルーン小腸内視鏡(DEB)とカプセル内視鏡(CE)を用いた小腸疾患の内視鏡検査です。これまでは外科手術が必要であった小腸出血や小腸腫瘍などの内視鏡的診断と治療が可能となり、患者さんの負担軽減につながります。

▶ 定義

年間の検査件数です。

コメント

ダブルバルーン小腸内視鏡は、一般的な内視鏡では診断・治療が困難である小腸疾患の内視鏡診断と治療が可能となります。また、術後再建腸管を有する患者さんの診断・治療にも有用です。

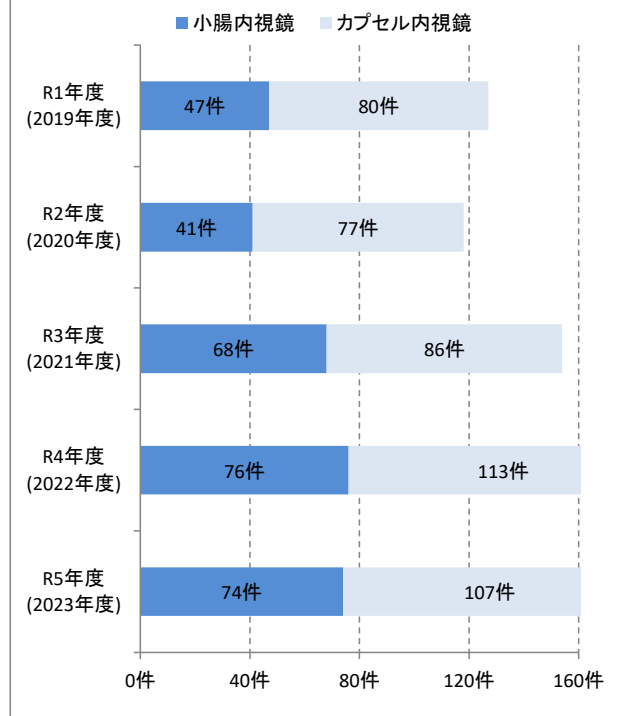
算式

延べ件数

単位

件

小腸内視鏡検査件数



腹部超音波検査件数

▶ 項目の解説

肝臓・胆道(胆嚢・胆管など)・脾臓をはじめとする腹部臓器の状態把握目的に最初に行われることが多い画像診断です。腹部超音波検査は非侵襲性及び即時性に優れた検査です。一方で術者の技量により評価が左右される欠点も有します。しかし、当科に紹介されることが多い肝硬変、肝腫瘍、黄疸症例の状態把握・診断に極めて有用です。この件数に肝胆疾患診療の体制や人員・設備などを含めた充実度が反映されるものと考えます。

▶ 定義

消化器内科医師が施行した年間の腹部超音波検査件数 + 院内医師がオーダーした腹部超音波検査(超音波技師施行)件数

コメント

以前、当院では腹部超音波検査を行うにあたり、その多くは肝臓内科にコンサルトの上、施行されておりました。現在は肝臓内科を介さず、各診療科より直接、癌診療部腹部超音波検査へ依頼することが可能となりました。加えて胆膵系の疾患に関しては消化器内科の胆膵専門医師が、同検査を施行しております。腹部超音波の技術講習により施行医が増え、また他科依頼の件数も増えたため、検査数は大幅に増加しております。

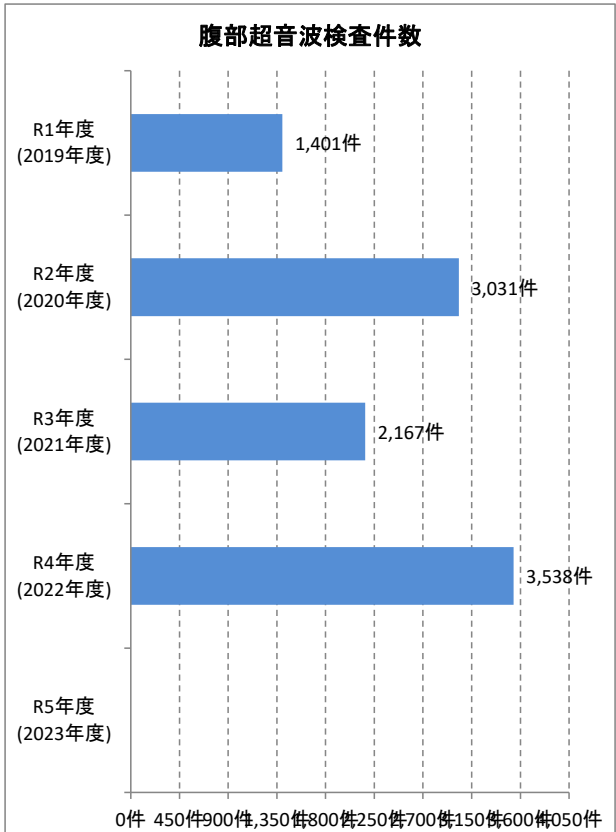
算式

自科生理検査
901件

単位

件

+
がん診療部腹部超音波検査
数、内臓内科1266件



2. 大学病院特有項目:

内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)件数

▶ 項目の解説

早期食道癌、早期胃癌、早期大腸癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術の施行件数です。リンパ節転移の可能性が極めて低い、粘膜内から粘膜下層浅層に留まる病変を、粘膜下層から剥離します。

▶ 定義

年間の治療件数です。

コメント

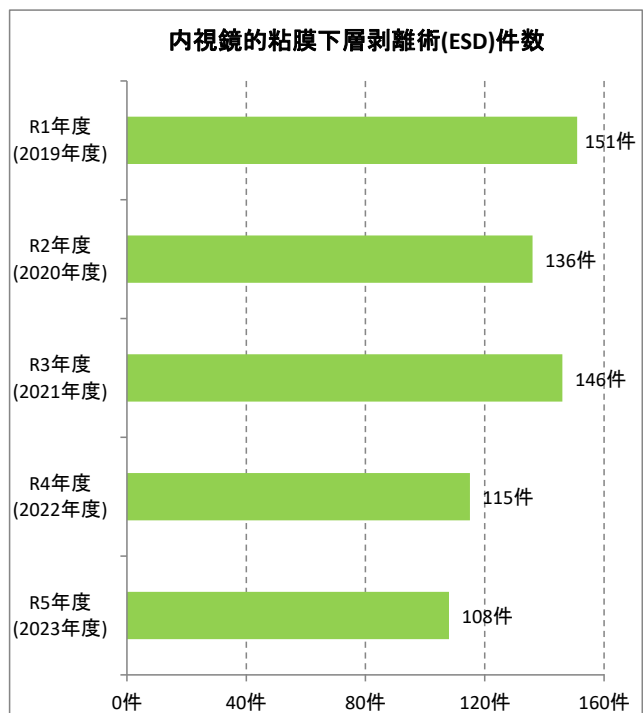
外科手術よりも患者さんにかかる負担が軽く、入院日数も短縮されますが、高度な技術を要する手技で県内では専門的に施行可能な施設は限定されています。

算式

延べ件数

単位

件



2. 大学病院特有項目：

内視鏡的止血術

▶ 項目の解説

食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、すべての腸管からの出血に対し、内視鏡的に治療を行います。

▶ 定義

年間の治療件数です。

コメント

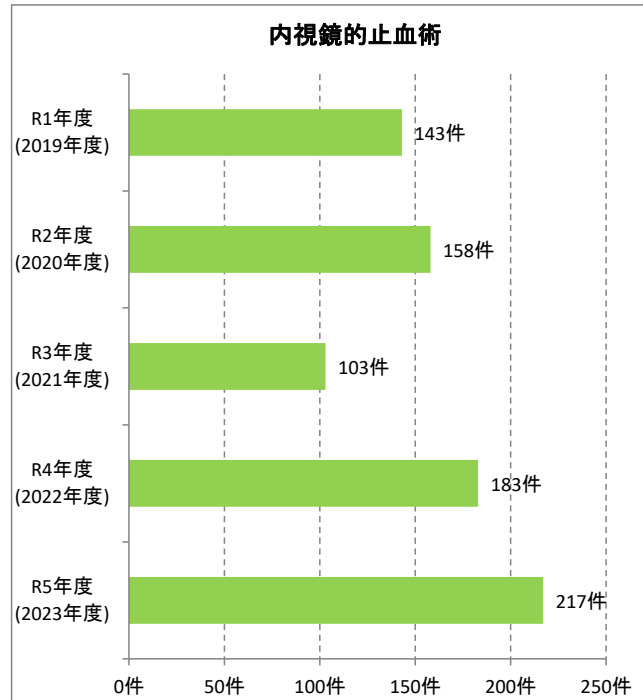
当院救命救急センターと協力して、日中夜間を問わず緊急で止血処置に対応しています。食道胃静脈瘤出血の止血治療は内視鏡的食道胃静脈瘤治療に含まれます。

算式

延べ件数

単位

件



内視鏡的大腸ポリープ切除

▶ 項目の解説

大腸ポリープに対する内視鏡的切除術の施行件数です。

▶ 定義

年間の治療件数です。

コメント

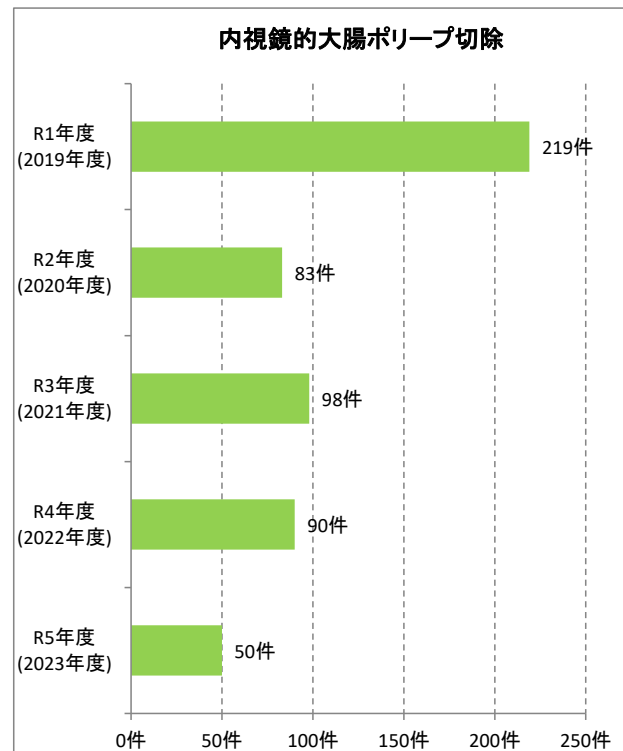
高齢化や抗血栓療法などの使用に伴い、一般病院で治療困難な症例が、年々増加傾向です。

算式

延べ件数

単位

件



超音波内視鏡(EUS)件数

▶ 項目の解説

超音波内視鏡(EUS)は胆膵疾患の精査目的に行われる検査です。細胞や組織の採取による病理学的確定診断(EUS-FNA)や各種ドレナージ(interventional EUS)を目的とした治療にも応用しています。ERCP不能例・不成功例に対しては積極的にinterventional EUSを施行しています。難易度が高く、重篤な偶発症が発生する可能性があります。したがって、限られた施設でしか行われていません。

▶ 定義

年間の検査件数です。

コメント

県内では他に専門的に施行可能な施設がありません。現在では診断的ERCPに代わって第一選択の精査法となっています。例年通りの検査数で推移しております。

算式

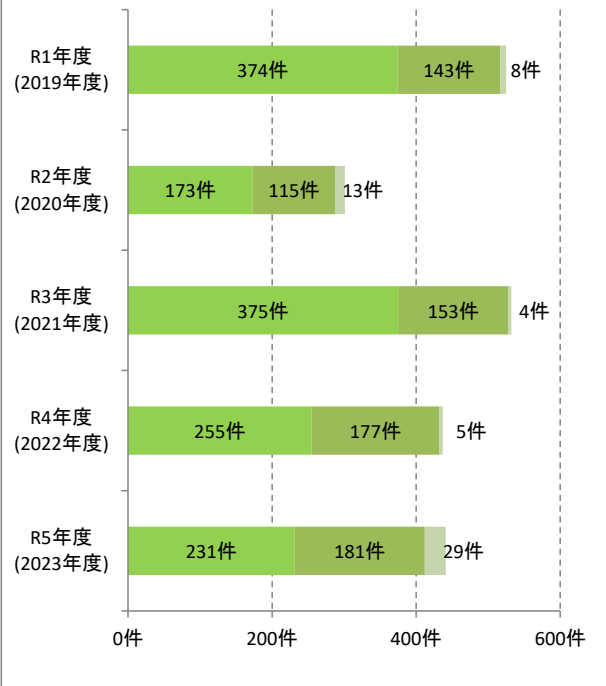
延べ件数

単位

件

超音波内視鏡(EUS)件数

- 診断的EUS
- 超音波内視鏡下穿刺吸引法(EUS-FNA)
- 治療的EUS



内視鏡的膵胆管造影(ERCP)

▶ 項目の解説

内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)は胆膵系疾患に対して行われる検査です。難易度が高く、重篤な合併症が発生する可能性もあります。したがって、限られた施設でしか行われていません。

▶ 定義

年間の件数です。

コメント

ERCPは年間300-400件で推移しています。R3年度より件数は増加しております。若手のERCP施行医が育ってきているためと思われます。

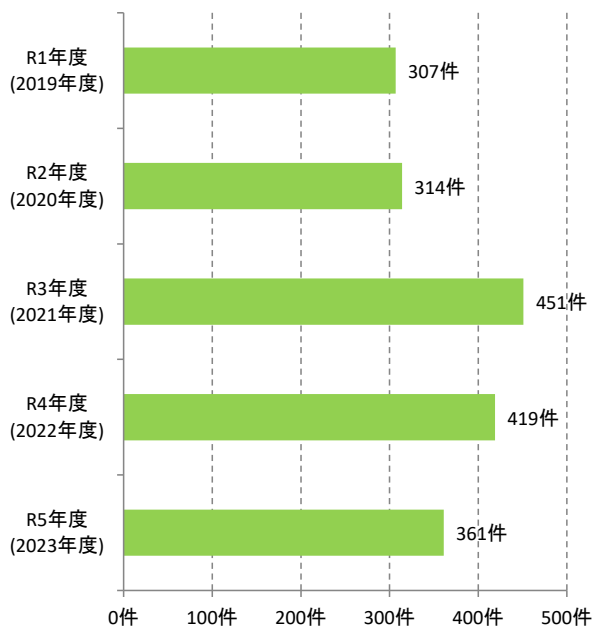
算式

延べ件数

単位

件

内視鏡的膵胆管造影(ERCP)



内視鏡的食道胃静脈瘤治療(内視鏡的食道胃静脈瘤硬化療法+内視鏡的食道胃静脈瘤結紮術)施行数

▶ 項目の解説

食道静脈瘤に対する内視鏡的治療は、肝硬変という重篤な基礎疾患を有する症例群に対し施行せざるを得ないことから全身状態管理に加え、高度な内視鏡技術が必要となります。この為、県内でも施行施設は限られています。この件数に専門性の高い肝疾患診療の体制や人員などを含めた充実度が反映されるものと考えます。

▶ 定義

年間の食道静脈瘤硬化療法と内視鏡的食道静脈瘤結紮術の合計数です。

コメント

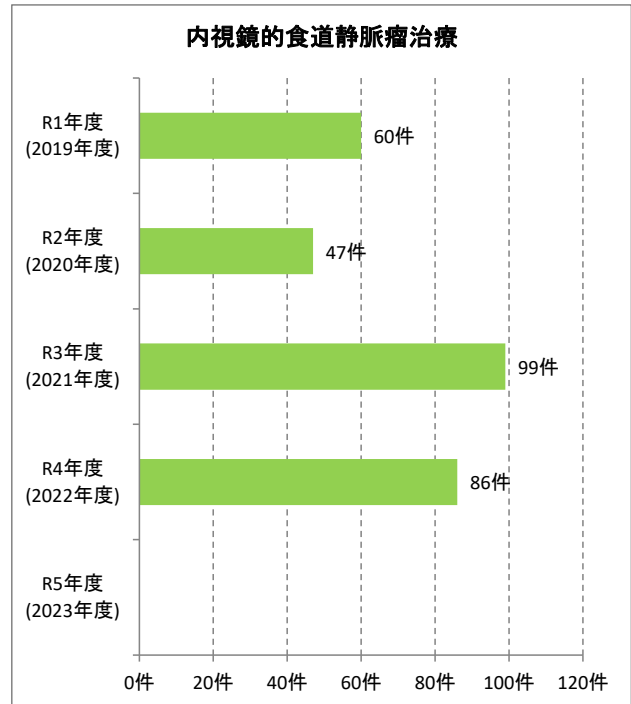
宮崎県内で施行可能な施設が少なく、ほとんどが当院肝臓内科にて施行されていた治療です。R3年度より消化器内科との合併のため、施行件数が増加しております。

算式

延べ件数
(内視鏡的硬化療法23件
+
内視鏡的結紮術76件)

単位

件



1. 一般的項目:

統合失調症圏疾患(ICD-10:F2)の平均在院日数

▶ 項目の解説

近年、精神科医療における入院医療の短縮化が課題となっています。当院でも地域の訪問看護ステーションを利用するなど、地域との連携を積極的に図り、入院期間の短縮に努め、平均在院日数を経年的に追跡することで評価を行います。

▶ 定義

統合失調症・統合失調感情障害と診断された患者が対象(妄想性障害・急性一過性精神病性障害、せん妄は除外)です。年度初日から年度末日までに上記対象疾患の入院患者の入院日数の総和を入院患者数で除した日数をここでは平均在院日数としました。

コメント

コロナ禍により退院促進できない場面も多く、今後もさらなる短縮に努力していきます。

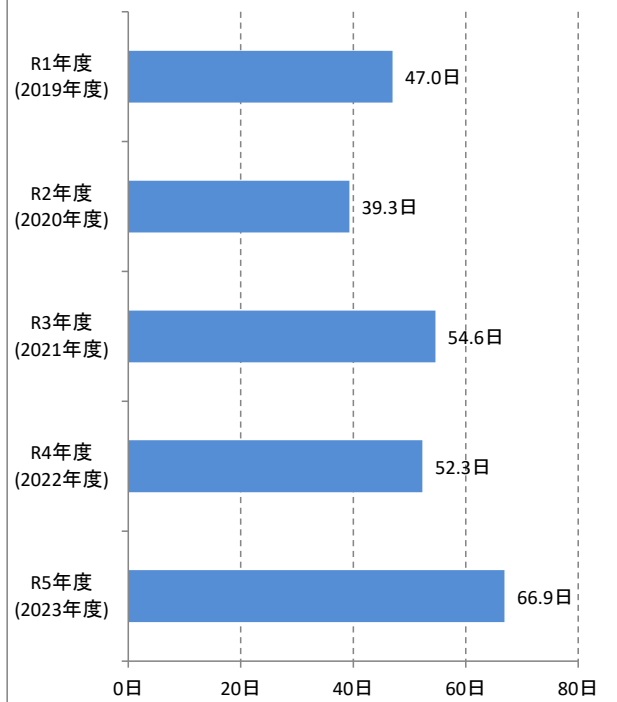
算式

平均在院日数

単位

日

統合失調症圏疾患(ICD-10:F2)の平均在院日数



2. 大学病院特有項目:

修正型電気けいれん療法の件数

▶ 項目の解説

修正型電気痙攣療法は、重症のうつ病や薬物療法に抵抗性のある統合失調症などの疾患に対する有効な治療法であるにもかかわらず、宮崎県では実施できる施設が限られています。技能の蓄積を実施経験数で評価します。

▶ 定義

年度内の施術数の総和です。1症例に対し10回施行した場合も、10症例に対し1回ずつ施行した場合も等しく10回と数えました。

コメント

毎年度、修正型電気痙攣療法は実施され、必要とされる実施技能は伝承されています。今後も経験数を重ね、より確かな治療実績を蓄積できるよう努めていきます。

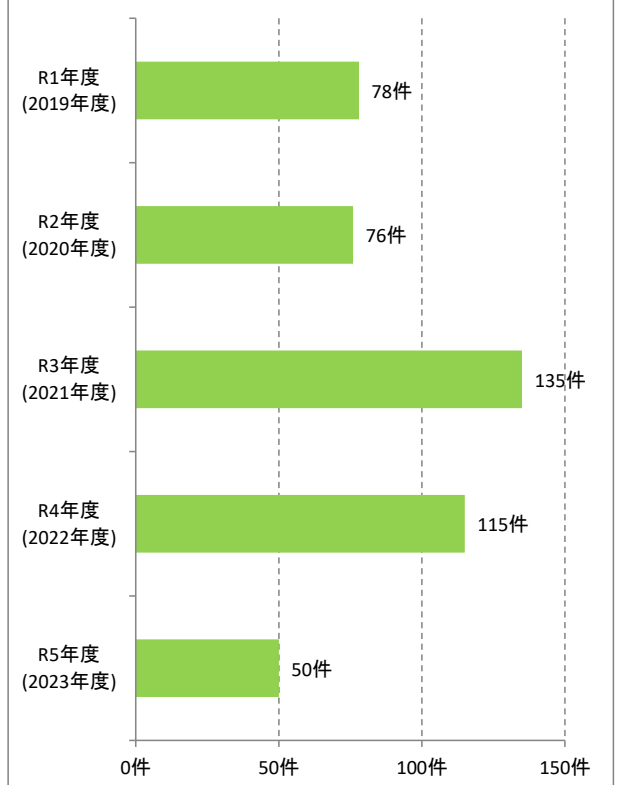
算式

延べ件数

単位

件

修正型電気けいれん療法件数



小児科

1. 一般的項目： 腎生検数

▶ 項目の解説

学校検尿などで発見される尿所見異常や腎機能障害は、慢性糸球腎炎などの基礎疾患を有している場合があります。

腎生検による組織診断と重傷度評価を行うことによって、適切な治療を選択することが可能となり、予後の改善につながります。

▶ 定義

年間の腎生検症例数です。

コメント

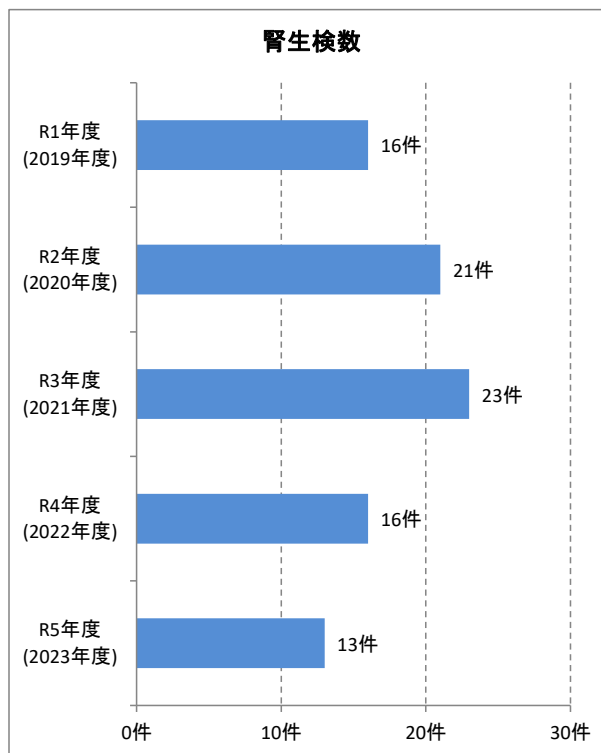
宮崎県で小児患者に対して腎生検が可能な唯一の施設として、年20例程度の実施実績を維持しており、宮崎県の小児腎疾患患者さんの早期発見、早期治療に努めています。

算式

実施数

単位

件



2. 大学病院特有項目： 造血幹細胞移植

▶ 項目の解説

造血幹細胞移植救援を行うことで、大量化学療法が可能となり、原疾患の治療成績が向上します。また血液悪性疾患に対する造血幹細胞移植は、GVL効果による殺細胞効果を高めます。

▶ 定義

年間の移植実施回数です。

コメント

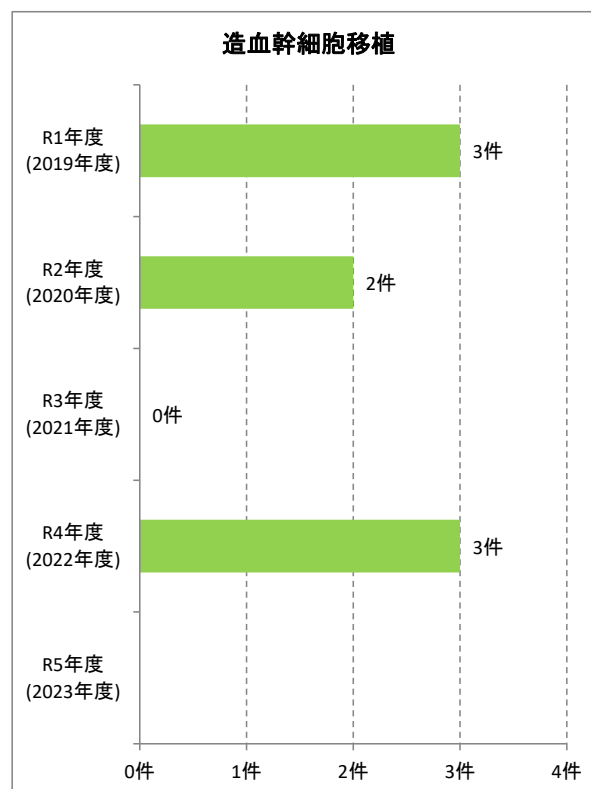
当施設が宮崎県の小児がん全ての治療を担っています。その発症数から移植が必要な症例数は妥当な数です。血液悪性疾患の同種移植を開始したことによりさらに実施回数の増加を見込んでいます。本治療によりさらなる治療成績向上に貢献しています。

算式

実施回数

単位

回



腹膜透析患者数

▶項目の解説

末期腎不全に対する腎代替療法として、小児では腹膜透析が選択されます。

また、小児腎不全患者の場合、最終的には腎移植を行うことが望ましいと考えられ、腎移植までの期間の維持透析として腹膜透析を行っています。

▶定義

新規に腹膜透析を開始した患者数です。

コメント

小児末期腎不全患者(0-19歳)の発生率が4人/100万人程度であり、成人科での透析導入や先行的腎移植症例を除くと概ね宮崎県小児腎不全患者の全てに対応していると考えている。さらにこれらの症例に維持腹膜透析を行うことで生命予後の改善に貢献しています。

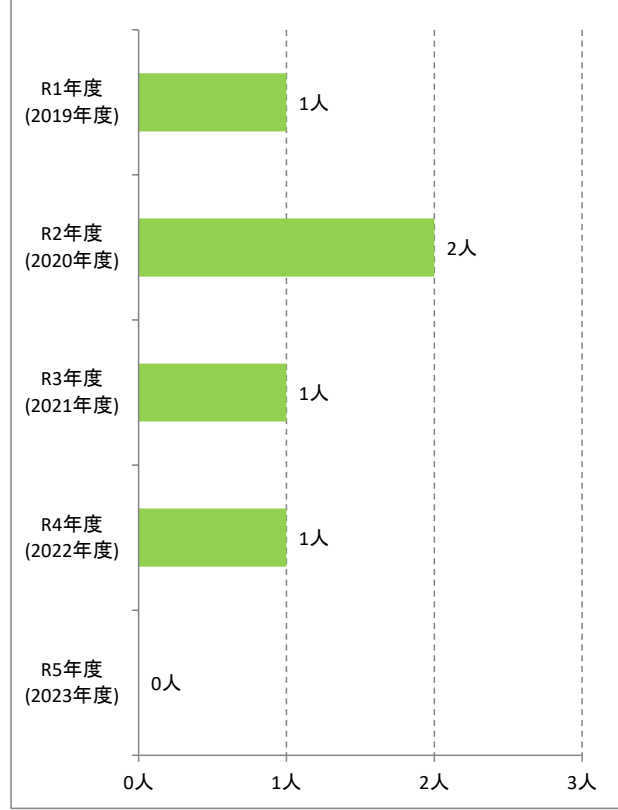
算式

新規患者数

単位

人

腹膜透析患者数



在宅人工呼吸管理

▶項目の解説

重症心身障害や神経難病などに由来する、最重度の呼吸障害を伴う患者さんが在宅で生活できるよう、在宅人工呼吸管理を行います。

▶定義

とくに重症度が高い、気管切開孔を介した陽圧式人工管理を施行した在宅療養患者の年間総数

コメント

かつては退院困難だった患者さんたちが、ご自宅で過ごせるようになってきました。

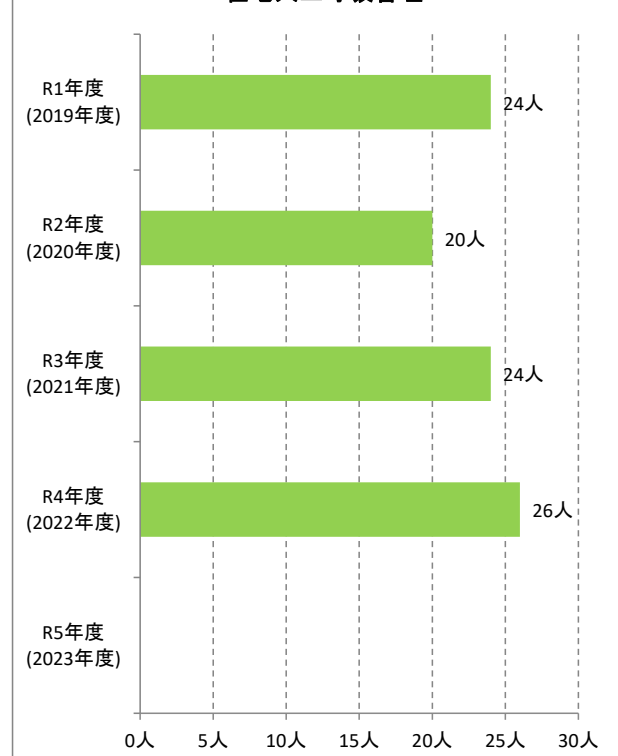
算式

総患者数

単位

人

在宅人工呼吸管理



胎児心エコー診断

▶ 項目の解説

胎児エコーで心疾患が疑われた妊婦に対する胎児心エコー診断です。

▶ 定義

年間の患者実数です。

コメント

ばらつきがありますが、出生数が減少しているのに対し症例数は増加しています。胎児心エコー診断によりスムーズな新生児心疾患治療が行われています

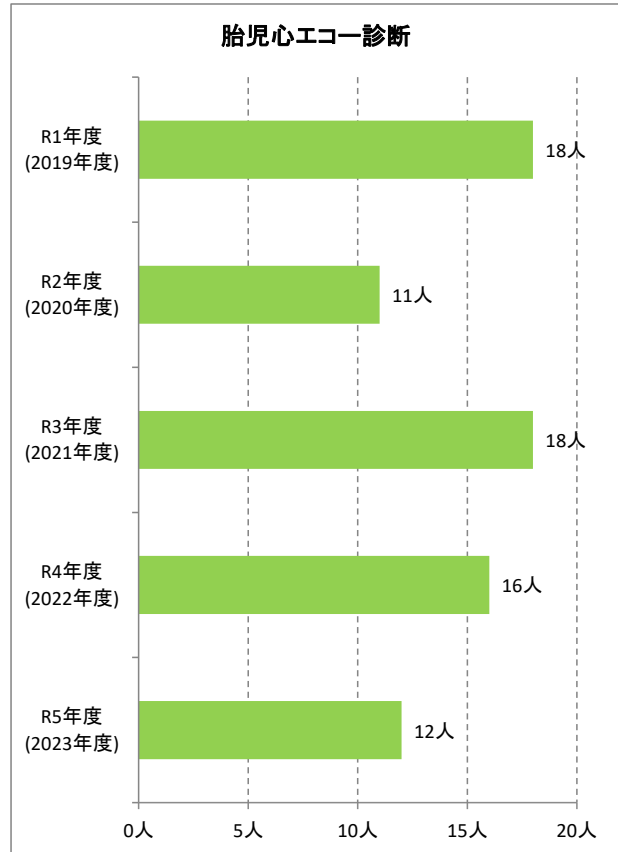
算式

施行患者数

単位

人

胎児心エコー診断



心臓カテーテル検査・治療

▶ 項目の解説

先天性心疾患、肺高血圧症、心不全などの精密検査です。足の付け根や首の血管から心臓までカテーテルを入れて検査します。必要に応じてそのままカテーテル治療を行います。

▶ 定義

年間の延被験者数です

コメント

増加傾向にあります。

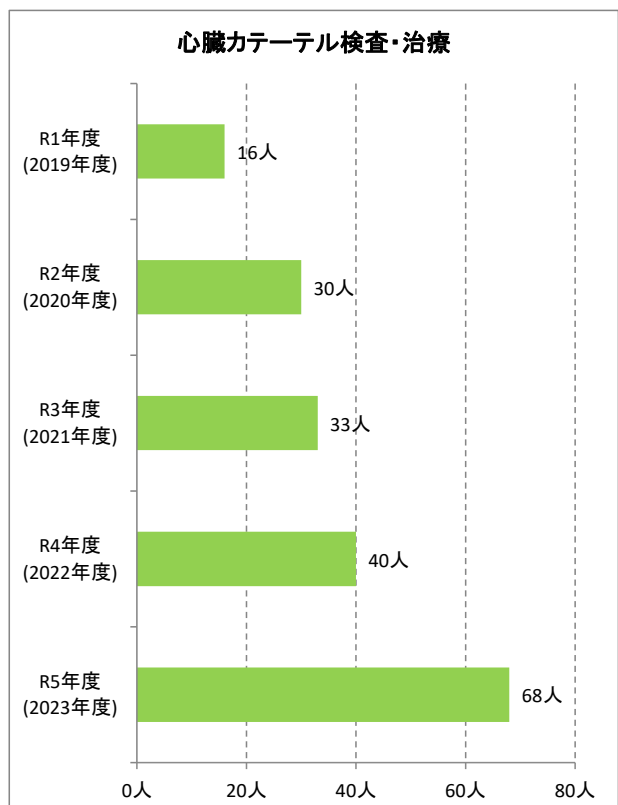
算式

延患者数

単位

人

心臓カテーテル検査・治療



肝胆膵外科

1. 一般的項目： 肝胆膵高難度手術件数

▶ 項目の解説

肝胆膵領域において難度の高い手術が多くあり、これらの術式は日本肝胆膵外科学会により高難度肝胆膵外科手術として指定されています。
これらを多く行っている施設はhigh volume centerであり、術後合併症が少ないと言われ、また肝胆膵外科医の教育施設としても貢献でき、アクティビティーの高い施設と言えます。

▶ 定義

日本肝胆膵外科学会により指定されている高難度肝胆膵外科手術の手術件数

コメント

年間50例前後の手術が行われており、これにより当施設は宮崎県で唯一の日本肝胆膵外科学会高度技能専門医制度認定修練施設(A)に認定されています。

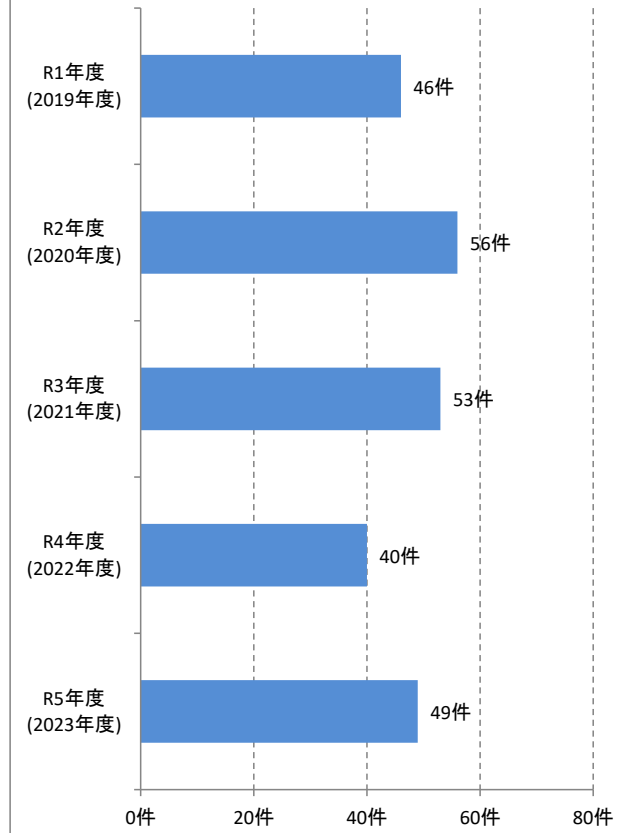
算式

延べ手術件数

単位

件

肝胆膵高難度手術件数



1. 一般的項目： 消化管腹腔鏡手術件数

▶ 項目の解説

腹腔鏡下手術は、従来の開腹手術に比べ患者への侵襲が少なく美容上も良好です。

腹腔鏡下手術における技術や器具の進歩により、消化管疾患に対して安全性や根治性を損なわず腹腔鏡下手術が可能となりつつあります。

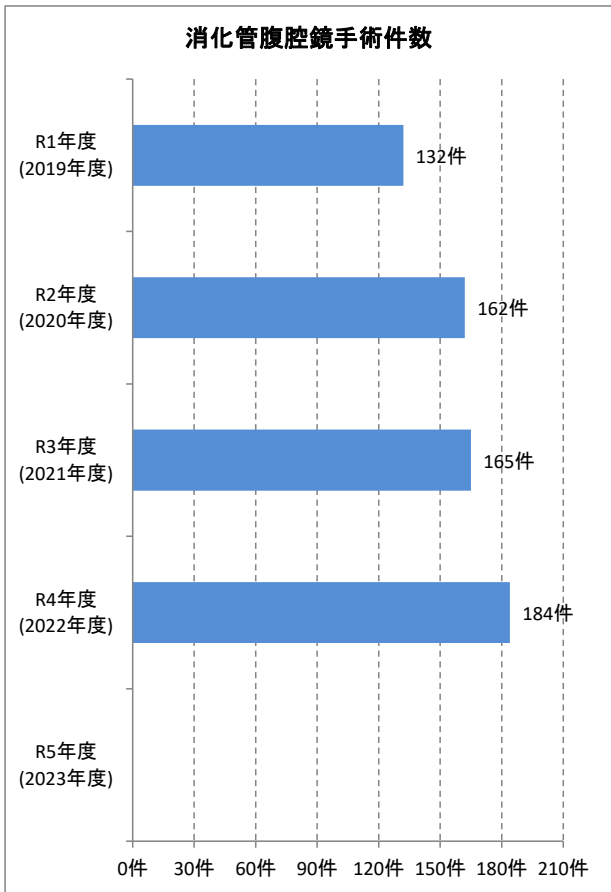
消化管腹腔鏡手術件数が多いことは、最新の治療手段により患者にやさしい治療が多く行われることを意味し、病院のアクティビティを示すこととなります。

▶ 定義

腹腔鏡または胸腔鏡を用いて行われた消化管の手術件数

コメント

食道癌手術に関しては県内唯一の日本食道学会の認定施設であり、全国でも種々ちゆううランキングでは30位以内に入るハイボリュウムセンターとして定着しており症例数も安定しています。胃癌に関しては、県全域の手術症例は徐々に大学に集まる傾向にありますが、疾患そのものの激減と早期発見による消化器内科による内視鏡治療の増加もあり、現状では横ばいです。しかしながら、日本胃癌学会による認定施設Aに指定される県南唯一の施設であり、手術症例の集約化は進む見込みです。大腸がん・直腸がんに関しては、これまで全国公立大学病院で最低の手術数で成績も散々たるものであったため、スタッフの体制を一新しロボット手術を導入したこともあり症例数は増加傾向にあり、次年度はさらに体制とチームの一新を図る予定で増加が見込まれます



算式

延べ手術件数

単位

件

1. 一般的項目： 心臓胸部大血管外科手術症例数

▶ 項目の解説

高齢人口の増加に伴い、冠動脈疾患、弁膜症疾患及び大動脈疾患といった循環器病疾患が増加しています。そのような中、内科的治療での対応が困難な場合、外科治療が選択されます。

▶ 定義

年間の心臓胸部大血管外科手術数(開心術+胸部ステントグラフト+経カテーテル的弁置換術)

コメント

循環器疾患の手術数は年々増加傾向にあります。侵襲性の軽減を目指した小切開手術のほか、広範大動脈瘤や弁尖温存基部置換術など難易度の高い手術も増えています。

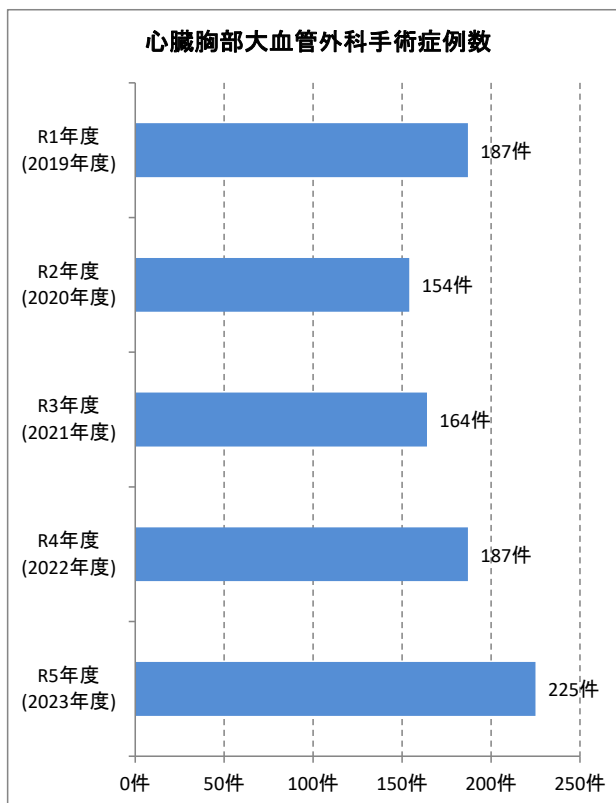
算式

年間の延べ手術件数

単位

件

心臓胸部大血管外科手術症例数



2. 大学病院特有項目： ステントグラフト挿入術件数

▶ 項目の解説

かつては大動脈瘤の治療は開胸や開腹を必要とし、かつ胸部大動脈瘤は人工心肺を用いなければ手術不可能でありました。しかしながらステントグラフトの開発により、開胸や開腹の必要のない方法で治療が可能となりました。

▶ 定義

年間の胸部及び腹部大動脈ステントグラフト挿入術数

コメント

低侵襲治療の一環であるステントグラフト挿入術は非常ニーズの高い治療です。開胸・開腹による人工血管置換術と併せ、最適な治療を提供しています。

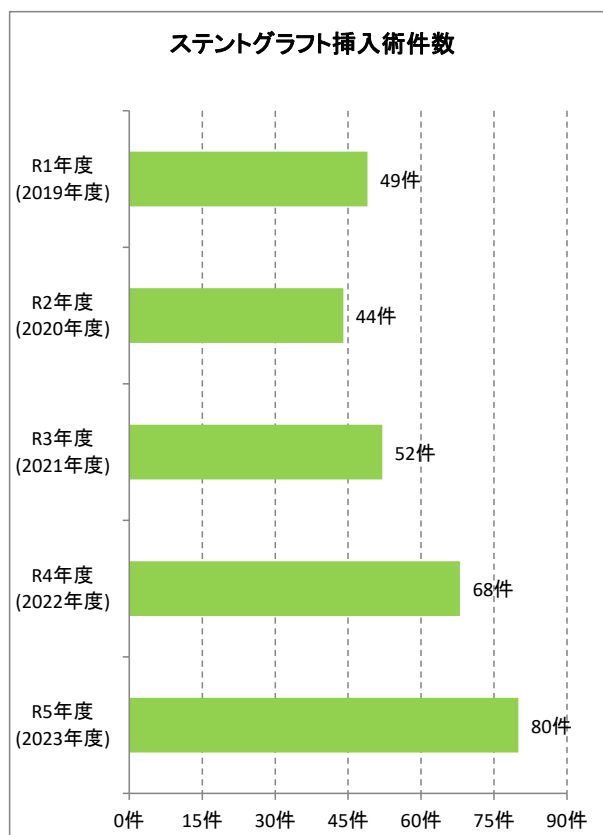
算式

年間の延べ手術件数

単位

件

ステントグラフト挿入術件数



2. 大学病院特有項目:

経カテーテル的弁留置術件数

▶項目の解説

当大学では大動脈弁狭窄症に対して経カテーテル的弁留置術を実施しています。これは、通常の人工心肺を使用した手術(開心術)の代替手術で、高齢者や併存疾患のため開心術が困難な患者様に有効な治療です。

▶定義

年間の経カテーテル的弁留置術数

コメント

年々増加傾向にあり、多くの患者様に満足して頂ける結果を提供しています。

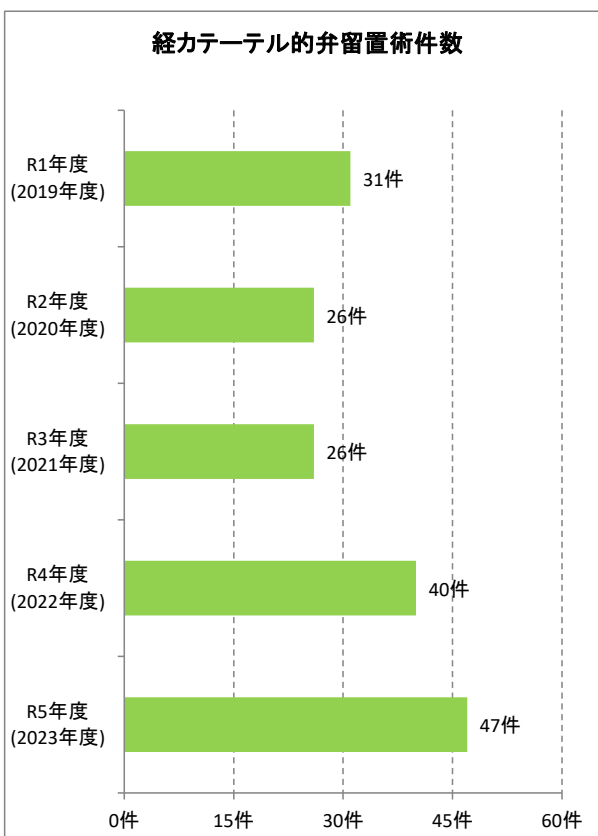
算式

年間の実施数

単位

件

経カテーテル的弁留置術件数



1. 一般的項目:

肺悪性腫瘍手術件数

▶ 項目の解説

肺がんの手術法は近年大きな進歩を遂げています。最近では胸腔鏡を用いた体にやさしい低侵襲手術が主流です。現在ロボット支援手術も積極的に行っております。

▶ 定義

年間の肺悪性腫瘍手術数

コメント

年々増加傾向にあります。

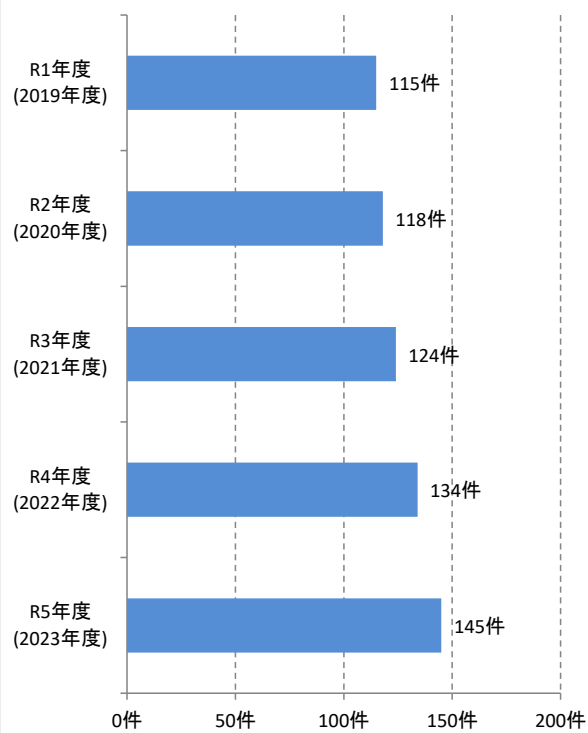
算式

年間の延べ手術件数

単位

件

肺悪性腫瘍手術件数



1. 一般的項目： 遊離複合組織移植手術(骨移植)

▶ 項目の解説

以前の下顎骨・上顎骨再建は人工物を使用した再建が多数を占めていましたが、感染症例では人工物の抜去を余儀なくされてきました。最近では、手術手技の進歩により自家骨移植が比較的簡便に行えるようになりました。

▶ 定義

年間の手術件数

コメント

手術件数のため、ばらつきはありますが、増加傾向にあります。

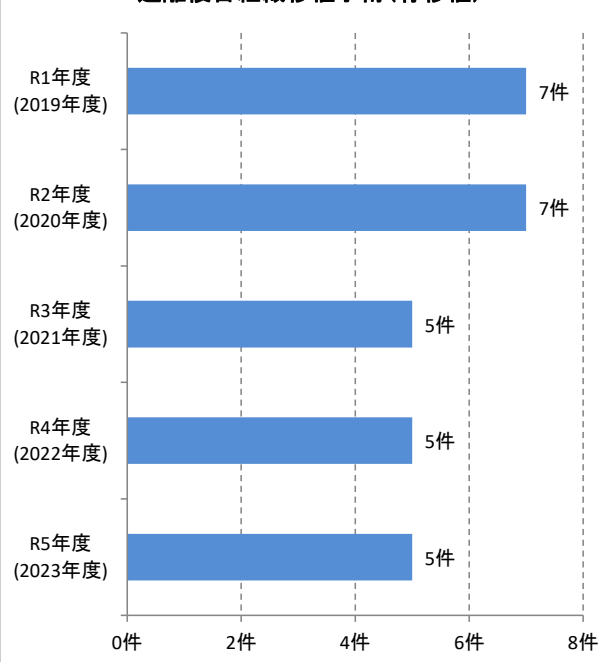
算式

延べ手術件数

単位

件

遊離複合組織移植手術(骨移植)



1. 一般的項目： 乳房再建術(自家組織)

▶ 項目の解説

当院は2018年から人工物による1次2次再建の施設認定を受け、人工物による乳房再建が可能となりましたが、自家組織による再建も行なっております。

▶ 定義

年間の手術件数

コメント

今後増加が見込まれます。

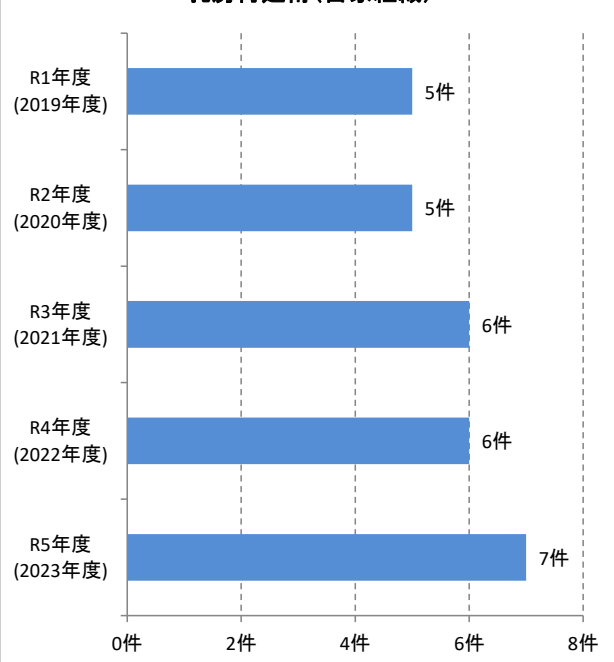
算式

延べ手術件数

単位

件

乳房再建術(自家組織)



2. 大学病院特有項目:

乳房再建術(インプラント)

▶ 項目の解説

2014年から人工物(エキスパンダー、インプラント)による乳房再建が保険診療で行うことが可能となりました。当院は2018年から人工物による1次2次再建の施設認定を受け、人工物による乳房再建が可能となりました。

▶ 定義

年間の手術件数

コメント

今後増加が見込まれます。

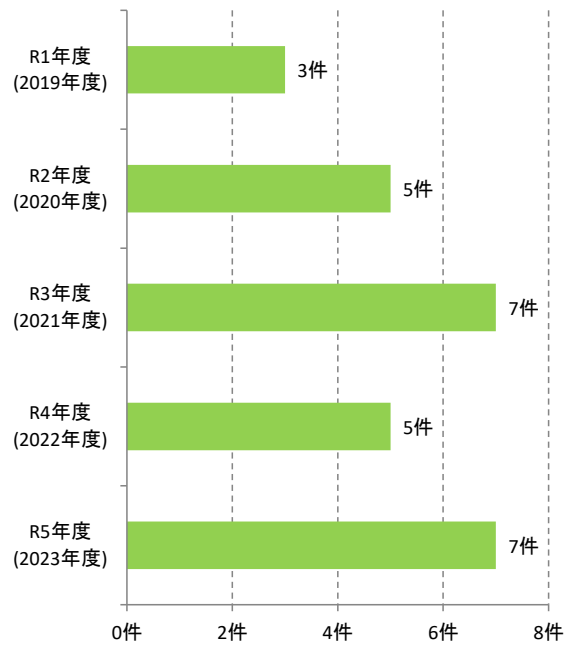
算式

延べ手術件数

単位

件

乳房再建術(インプラント)



1. 一般的項目： 外来患者数

▶ 項目の解説

整形外科(運動器)疾患は多種多様にわたっており、本院は地方の特定機能病院として全ての疾患に対応する必要があると考えています。

外来患者数を評価し、さらには疾患ごとの患者数などを検討することで全体的評価や特徴を検討する必要があります。

▶ 定義

年間の外来患者数

コメント

平成22年5月から外来棟が新設され診察室が増加し、一度に診察できる患者数を増加させることが可能になりました。
また、プライバシーへの配慮や待ち時間を減らすことなど患者サービスにも貢献できるようになっています。

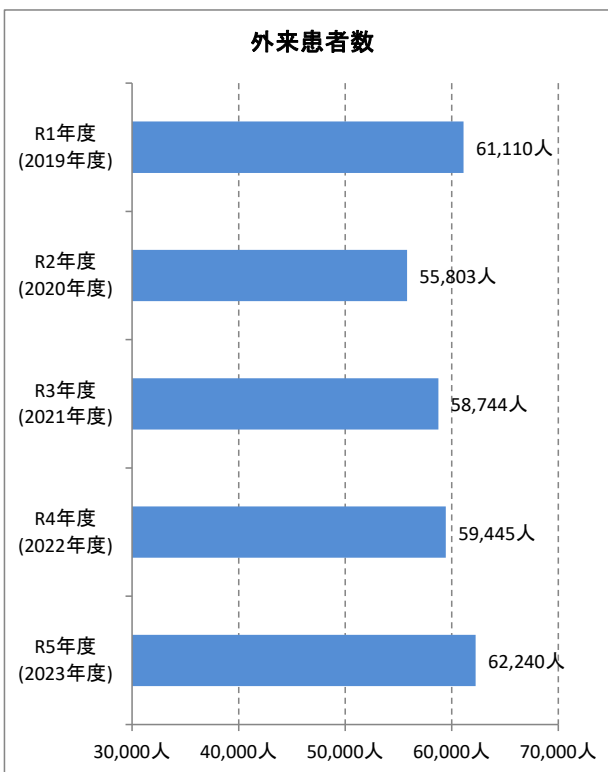
算式

延べ患者数

単位

人

外来患者数



入院患者数

▶ 項目の解説

入院患者数は、入院期間の短縮を心がけていますが、紹介患者の増加により待機患者の入院待ちが長期となっています。

大学病院では重症疾患を多く扱っていますが、診療システムを連携することで効率的な入院運営を行いそのことを評価します。

▶ 定義

年間の入院患者数

コメント

以前のベッド数から増加し、共通病床の利用や救命救急センターの開設もあり、また各科との連携のお陰で入院待機患者数を増やさないようにしています。

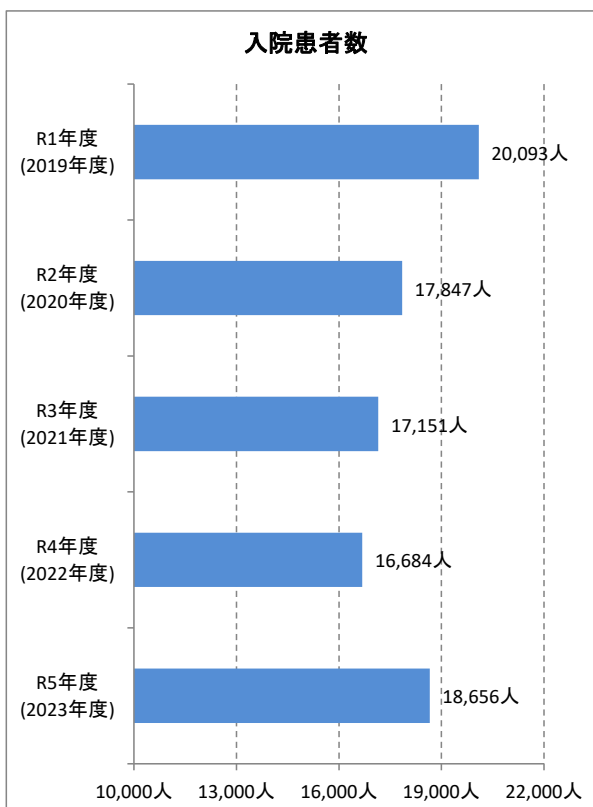
算式

延べ患者数

単位

人

入院患者数



手術件数

▶ 項目の解説

地方の特定機能病院として、様々な疾患に対する手術を実施することが必要不可欠と考えており、手術件数と術式などを検討する。

▶ 定義

年間の手術件数

コメント

平成20年に手術室を増設後、手術件数は増加しています。救急患者の手術件数も増加しており対応できる体制を構築する。

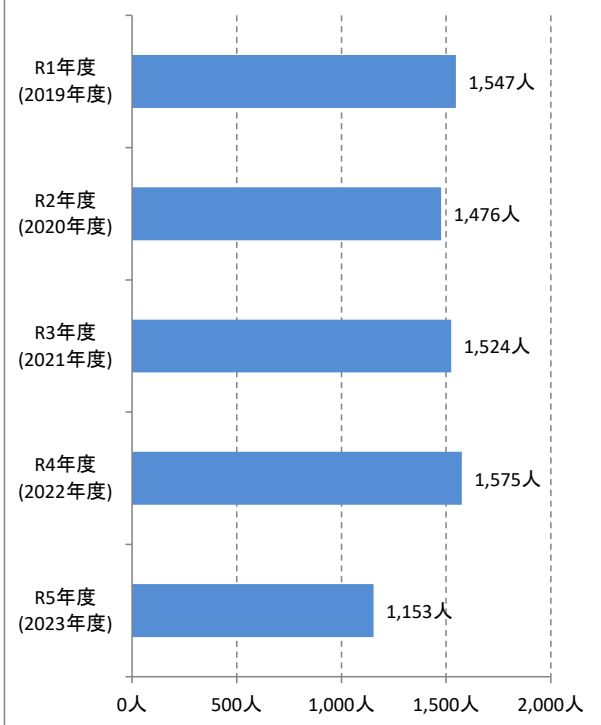
算式

延べ患者数

単位

人

手術件数



2. 大学病院特有項目：

体外衝撃波疼痛治療件数

▶ 項目の解説

体外衝撃波疼痛治療装置を、難治性の足底腱膜炎を中心とした疼痛性疾患に用いた診療を行っています。

本装置は、平成23年12月に難治性の足底腱膜炎に対して保険収載されており、国内での実施件数も少ない状況です。

本院特有の治療法で今後が期待されています。

▶ 定義

疾患ごとの実施件数

コメント

本院では足底腱膜炎が保険収載される前から治療を実施しており、スポーツ選手をはじめ疼痛で困られている患者さんへの新しい治療方法としての実績をあげています。

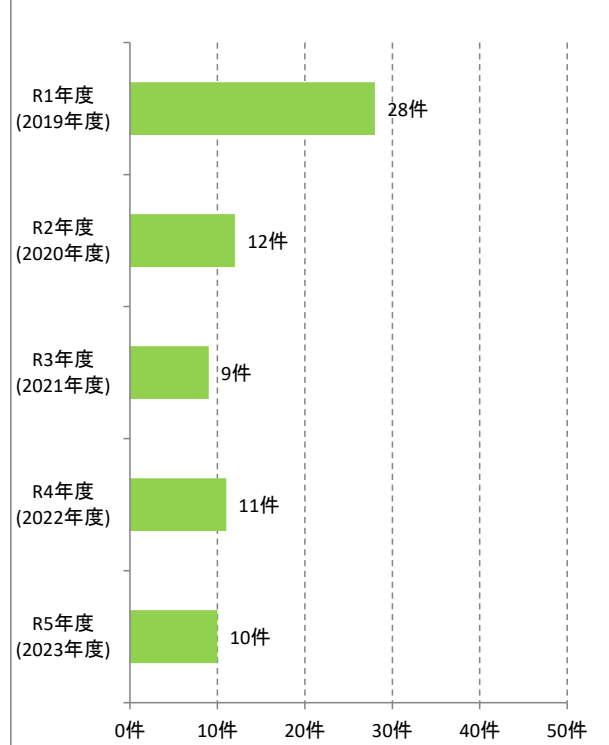
算式

実施件数

単位

件

体外衝撃波疼痛治療件数



2. 大学病院特有項目：

自家培養軟骨移植術件数

▶項目の解説

整形外科的再生医療として自家培養軟骨移植術を膝関節軟骨損傷症例に対し実施しています。

本治療法は、2012年7月に外傷性軟骨欠損症もしくは離断性骨軟骨炎に対して保険収載されています。

損傷・欠損した関節軟骨の治療法で今後が期待されています。

▶定義

疾患ごとの実施件数

コメント

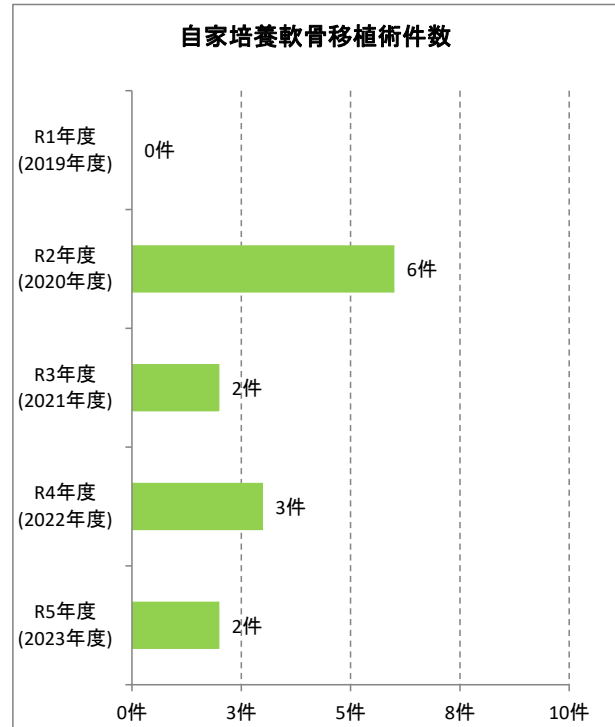
当治療法は実施施設基準や手術実績を満たす施設でのみ承認されており、実施医の研修も必須となります。交通事故やスポーツなどによる軟骨損傷に対する有効な治療手段です。

算式

実施件数

単位

件



1. 一般的項目： 皮膚悪性腫瘍の症例数(入院症例)

▶ 項目の解説

皮膚悪性腫瘍は外科的治療を中心に、化学療法、放射線治療をそれぞれのケースに併せて行っております。

▶ 定義

年間の皮膚悪性腫瘍の入院患者数です。

コメント

集学的な治療を中心に入院加療を行っております。最近では毎年100例以上の皮膚悪性腫瘍の入院治療を行っています。

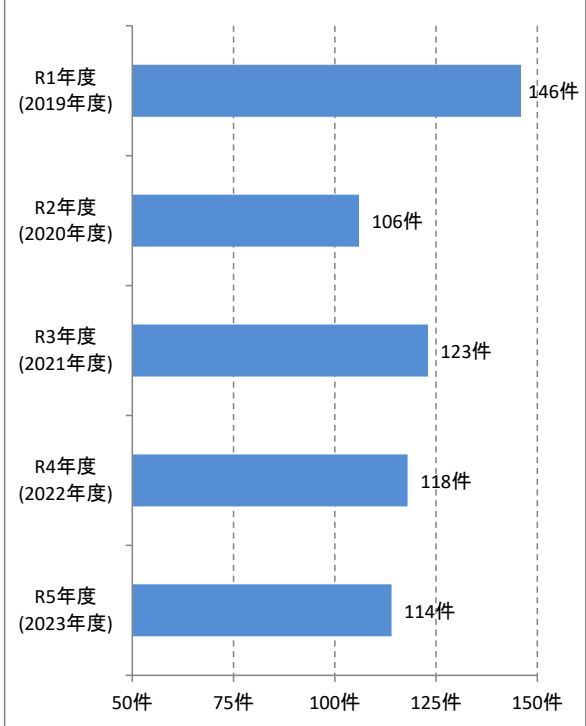
算式

延べ件数

単位

件

皮膚悪性腫瘍の症例数(入院症例)



2. 大学病院特有項目： 悪性腫瘍センチネルリンパ節生検症例数

▶ 項目の解説

悪性腫瘍のリンパ節転移の評価のためにセンチネルリンパ節生検を行っております。

▶ 定義

放射線RIを使用して行った症例数です。

コメント

病期(stage)を評価するのに重要な役割を果たします。適応となる疾患は限られますが必要症例では積極的に施行し、令和3年度は施行件数が増加しています。

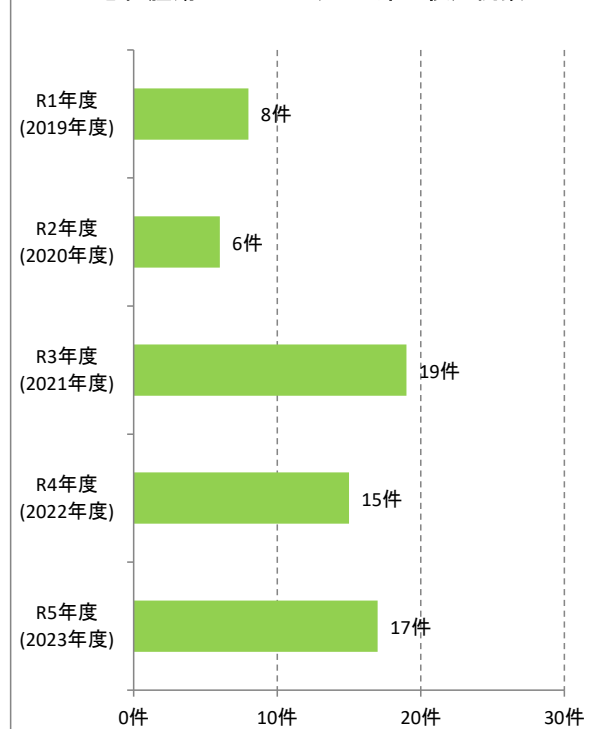
算式

延べ件数

単位

件

悪性腫瘍センチネルリンパ節生検症例数



1. 一般的項目： 腎臓および副腎の腹腔鏡手術（症例数）

▶ 項目の解説

腎臓および副腎は、後腹膜臓器のため腹腔鏡以前はかなり大きな切開創が必要であったが、腹腔鏡手術にて低侵襲となり、術後疼痛緩和、入院期間の短縮が実現できるようになりました。

▶ 定義

年間の手術件数です。

コメント

腎癌の治療は小径腎癌はもちろんのこと、サイズの大きなものや埋没型の腎癌であってもロボット支援下腎部分切除術の適応となっており、そのため、腹腔鏡下腎摘除術は減少傾向になっている。

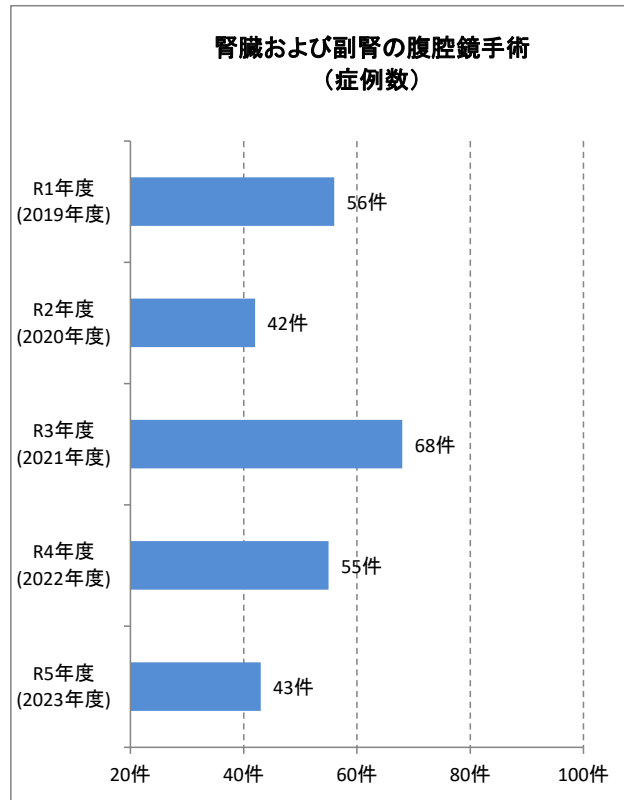
算式

件数

単位

件

腎臓および副腎の腹腔鏡手術（症例数）



1. 一般的項目： 腎癌のロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術

▶ 項目の解説

2019年10月より内視鏡手術支援ロボット(da Vinci)を導入しました。従来の腹腔鏡手術は直線的鉗子の動きしかできませんが、da Vinciで用いられているロボットアームは人間の手より可動域が広くより繊細な動きが可能となります。それにより手術の質の向上と合併症のリスク低減が望めます。

▶ 定義

年間の手術件数です。

コメント

2019年にDa Vinciを導入以来、RAPNの手術件数は増加傾向にあります。当初は小径腎癌のみが適応でしたが、現在では難症例と言われる埋没型腎癌や腎門部の腎癌、サイズが大きめの腎癌でもロボット支援下に部分切除が可能となりました。

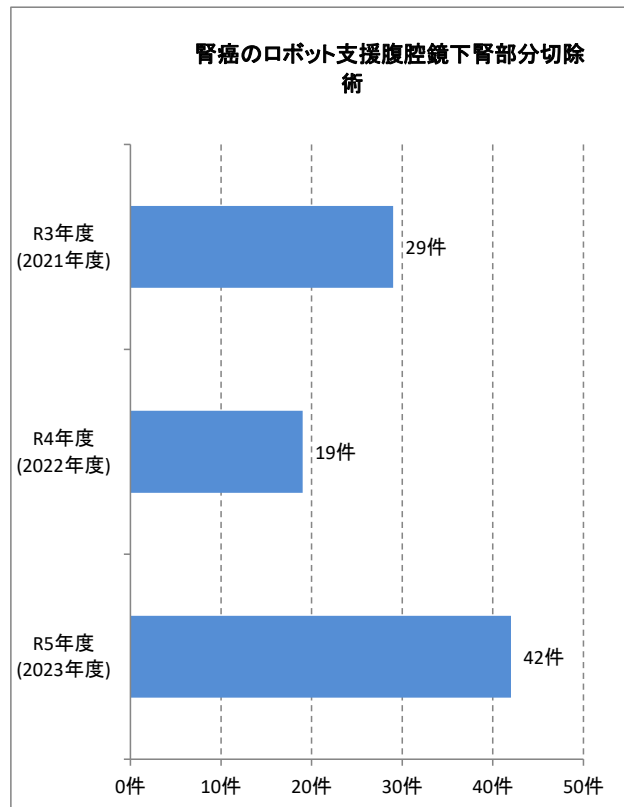
算式

件数

単位

件

腎癌のロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術



1. 一般的項目：

前立腺癌のロボット支援腹腔鏡下手術

▶ 項目の解説

2019年10月より内視鏡手術支援ロボット（da Vinci）を導入しました。従来の腹腔鏡手術は直線的鉗子の動きしかできませんが、da Vinciで用いられているロボットアームは人間の手より可動域が広くより繊細な動きが可能となります。それにより手術の質の向上と合併症のリスク低減が望めます。

▶ 定義

年間の手術件数です。

コメント

導入以来、安定した術式で手術を行なっています。近年では拡大リンパ節郭清を必要とするハイリスクな前立腺癌も積極的に手術を行なっております。

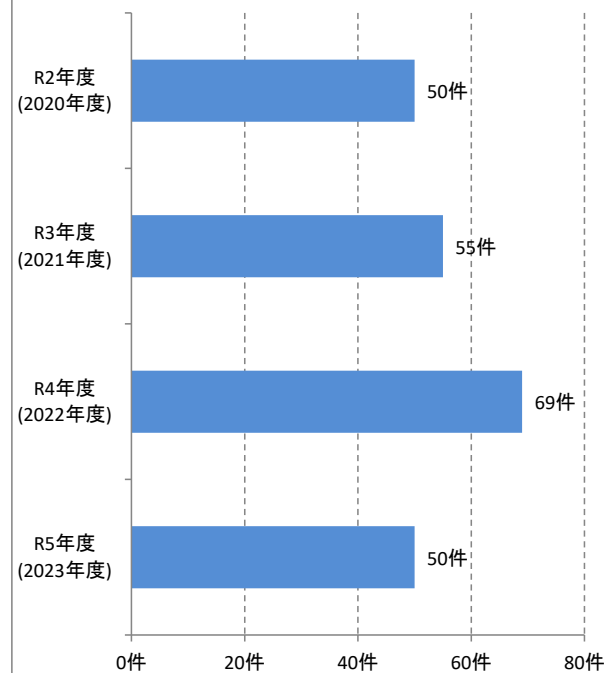
算式

件数

単位

件

前立腺癌のロボット支援腹腔鏡下手術



膀胱癌の腹腔鏡手術(症例数)

▶ 項目の解説

前立腺や陰周囲には静脈叢が発達しているため、摘出の際、出血が多くなる場合もありましたが、腹腔鏡手術による気腹にて、出血を最小限に抑えることが可能となりました。また尿路変向で使用する腸管の創外に脱出しないため、浮腫が軽減できました。また術後疼痛緩和が実現できるようになりました。

▶ 定義

年間の手術件数です。

コメント

かつては年間20例以上は施行していましたが、令和5年度からはロボット支援下膀胱全摘除術に移行していったため、令和5年度の件数は5件と少なめになっています。参考までに同年のロボット支援下膀胱全摘除術は13件でした。

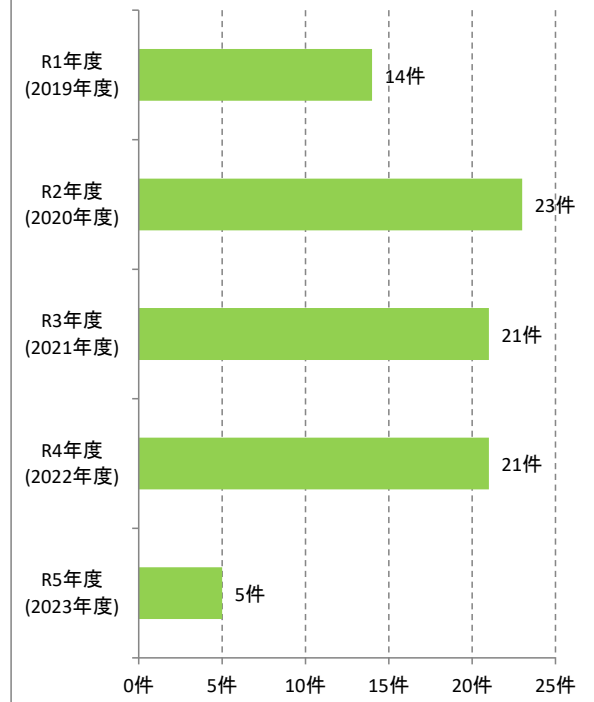
算式

件数

単位

件

膀胱癌の腹腔鏡手術 (症例数)



1. 一般的項目： 全手術件数(前房内注射、硝子体注入を除く)

▶ 項目の解説

小切開での網膜硝子体手術から小児の斜視手術まで多岐にわたる眼疾患の手術を行っており、眼科領域のほぼすべてを網羅しています。緊急手術の対応や全身管理が必要な患者さん、近医での手術が困難な難症例にも対応しており、その実績を数値で評価します。

▶ 定義

1年間の当科での手術件数です。

コメント

症例数は高いレベルで安定しており、難易度の高い手術も増えていきます。患者数の増加に伴い、短期入院での手術も増加しました。

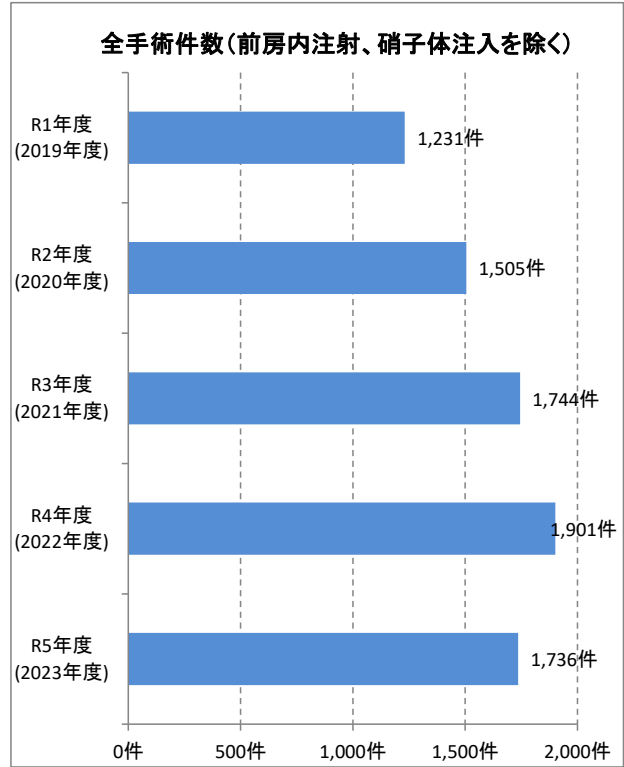
算式

1年間の手術件数
(前房内注射、
硝子体注入を除く)

単位

件

全手術件数(前房内注射、硝子体注入を除く)



2. 大学病院特有項目： 術後眼内炎発生率

▶ 項目の解説

感染により手術後に生じる眼内炎は、視機能を著しく低下させる重大な合併症の一つです。眼内炎の発症予防に十分注意することで、良好な手術成績を保つことができるため、その実績を評価します。

▶ 定義

1年間当科での手術患者で眼内炎を発症した割合です。

コメント

合併症である眼内炎は2023年度に1件発生しましたが、他施設と同等の発症率で概ね良好な成績です。手術環境、創部の管理が成果を上げています。今後は、ゼロを目指して術前から術中、術後までの管理を徹底したいと考えております。

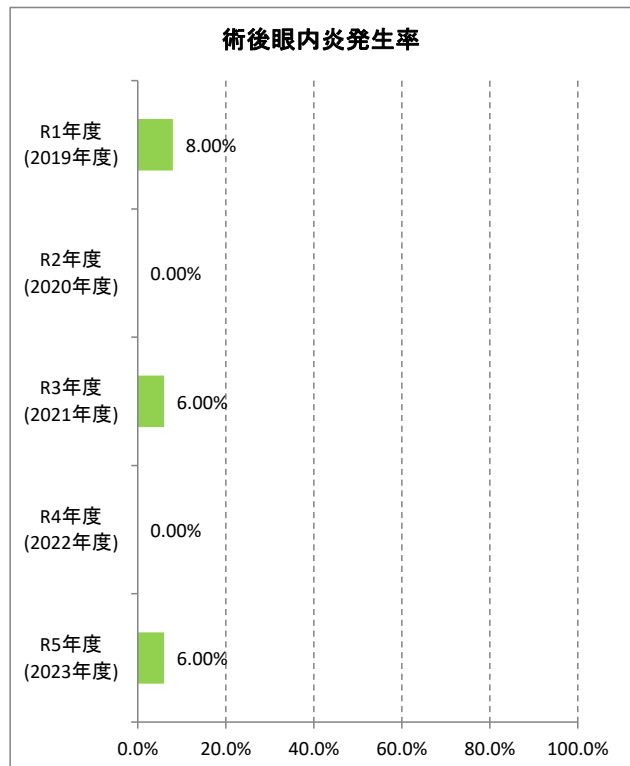
算式

分子：1年間の眼内炎発生数
分母：1年間の全手術数

単位

%

術後眼内炎発生率



1. 一般的項目:

耳科手術件数(鼓室形成、鼓膜形成)

▶ 項目の解説

鼓室形成術に代表される耳科手術は、耳鼻咽喉科機能手術の中でも代表的なものであり、当科で特に力を入れている領域の手術になります。

▶ 定義

年間の手術件数です。

コメント

例年200件以上の耳科手術をコンスタントに行っており、今後もその継続が期待出来る領域の手術になります。
鼓室形成術は耳鼻咽喉科機能手術の中でも代表的なもので、週刊朝日MOOKでも全国ランキングの一項目として掲載されており、2017年版では5位でした。

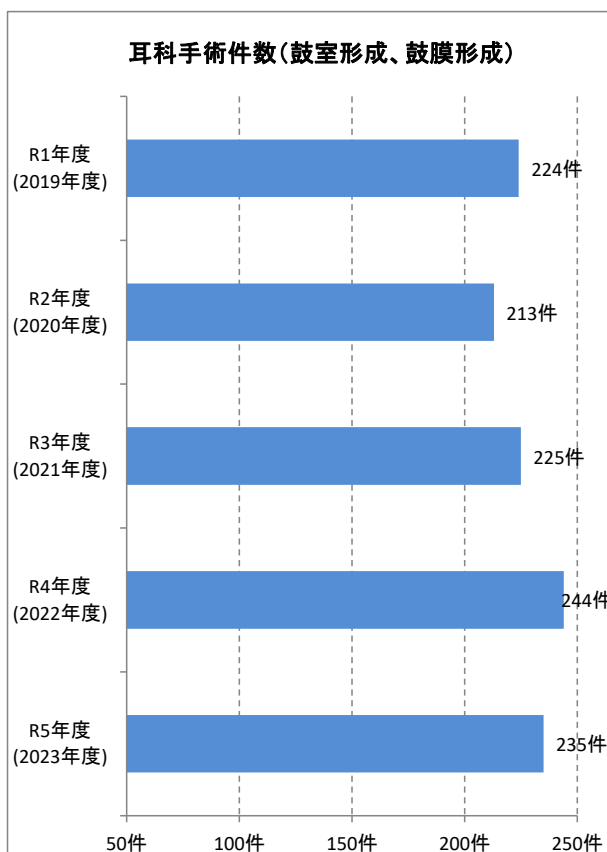
算式

延べ患者数

単位

件

耳科手術件数(鼓室形成、鼓膜形成)



1. 一般的項目:

頭頸部腫瘍手術

▶ 項目の解説

頭頸部腫瘍の根治的切除、機能的・整容的再建を含む手術になります。

▶ 定義

手術件数です。

コメント

がん拠点病院として頭頸部がん治療の中心的役割を担っていることが分かります。高齢化社会となり益々その重要性が高まっている領域の手術であり、コロナ禍の影響で症例数が減少傾向となっていますが、今後増加する可能性が高い領域の手術になります。

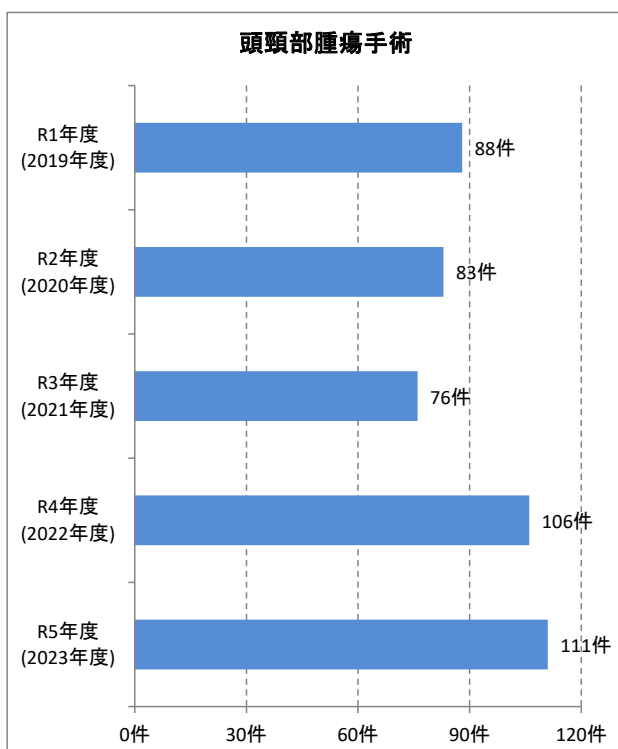
算式

延べ患者数

単位

件

頭頸部腫瘍手術



2. 大学病院特有項目:

人工聴覚器手術(人工内耳,人工中耳,骨固定型骨導補聴器)

▶ 項目の解説

人工内耳手術に代表される人工聴覚器手術は、鼓室形成術などと同様に当科で特に力を入れている領域の手術になります。施設基準があるため、県内では当科でのみ施行可能な手術になります。

▶ 定義

手術件数です。

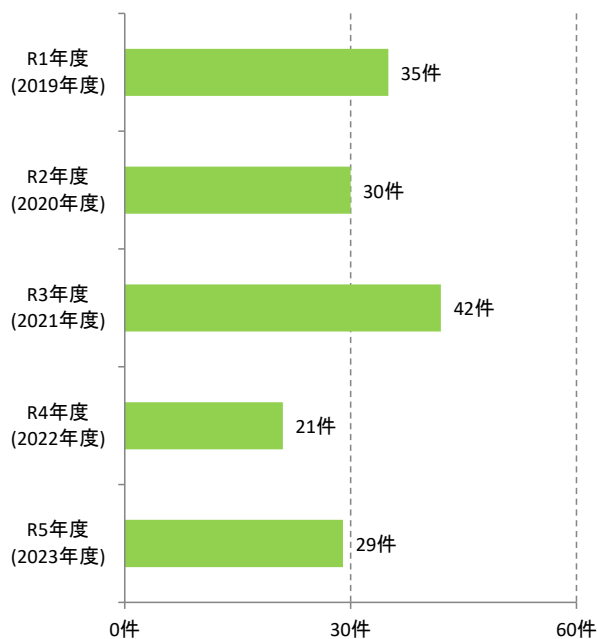
コメント

例年30件程度コンスタントに手術を行っており、今後もその継続が期待出来る領域の手術になります。

算式 延べ手術件数

単位 件

人工聴覚器手術(人工内耳,人工中耳,
骨固定型骨導補聴器)



1. 一般的項目:

婦人科悪性腫瘍初回治療件数

▶ 項目の解説

大学病院・宮崎県がん拠点病院婦人科としての、悪性腫瘍初回治療の総数を示します。婦人科悪性腫瘍には子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、外陰癌、膣癌などがあります。初回治療としては、手術療法、放射線治療、化学療法などがあります。身体的・社会的ハイリスク症例を多く含み、集学的治療を看護師・MSW・薬剤師などのコメディカルとともに、他診療科と協力しながら診療を進めております。この数値は当院におけるスタッフ、施設の充実度を示します。

▶ 定義

年間の初回治療件数です。

コメント

Covid19の影響もある中で増加傾向を維持できております。

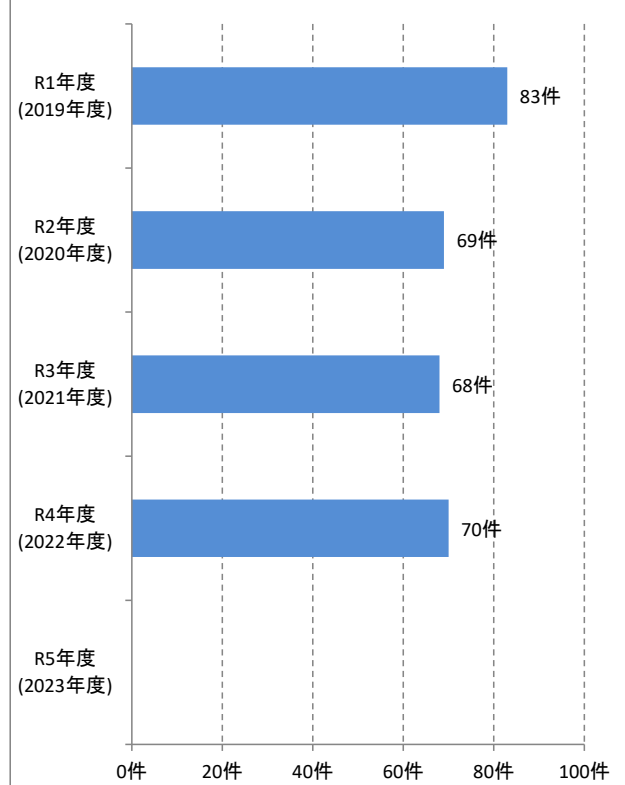
算式

延患者数

単位

件

婦人科悪性腫瘍初回治療件数



2. 大学病院特有項目:

腹腔鏡下手術(良性疾患)

▶ 項目の解説

婦人科領域における腹腔鏡手術は良性疾患だけでなく悪性疾患にも一部適応が拡大してきております。

▶ 定義

年間手術件数です。

コメント

横ばいで経過しております。

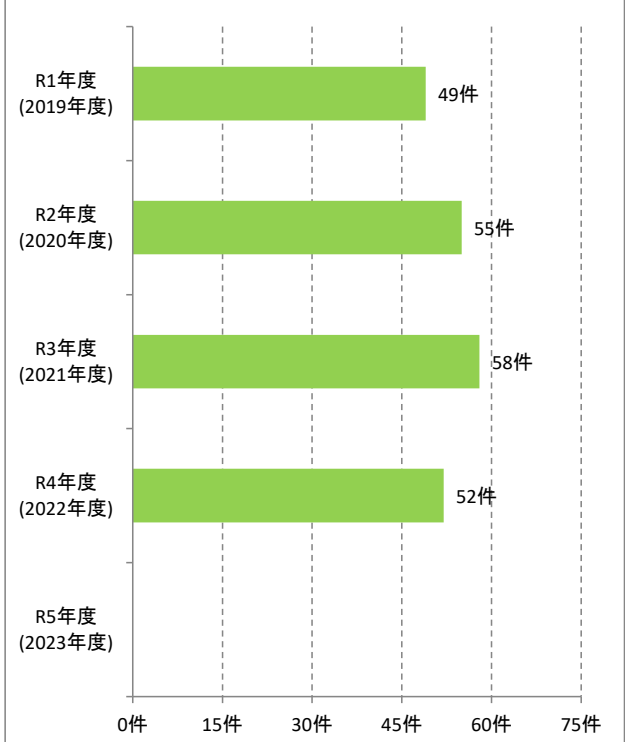
算式

延患者数

単位

件

腹腔鏡下手術(良性疾患)



2. 大学病院特有項目：

腹腔鏡下膣式子宮全摘術(子宮体癌)

▶ 項目の解説

腹腔鏡下手術は早期子宮体癌に対する低侵襲手術として重要な術式です。

▶ 定義

年間の手術件数です。

コメント

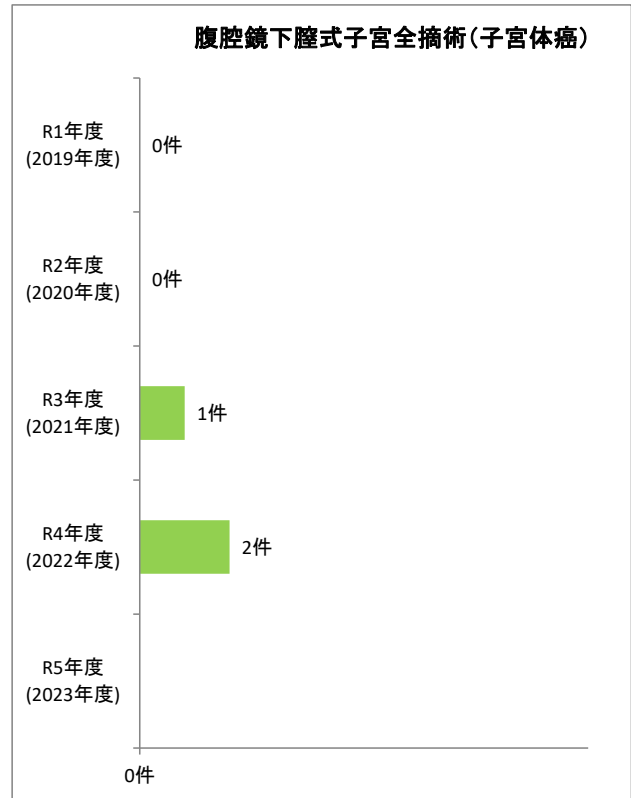
徐々に増加傾向です。

算式

延患者数

単位

件



2. 大学病院特有項目：

ロボット支援下膣式子宮全摘術

▶ 項目の解説

ロボット支援下手術は当院では良性子宮腫瘍に対して実施しております。

▶ 定義

年間の手術件数です。

コメント

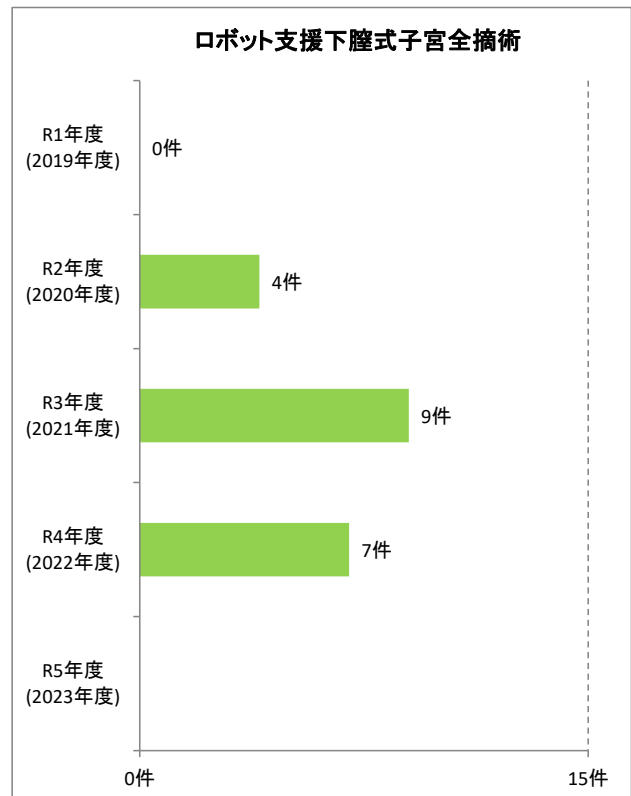
横ばいで経過しております。

算式

延患者数

単位

件



1. 一般的項目:

PETの件数

▶ 項目の解説

PET/CT検査は大学病院における高度のがん診療に欠かせない診断方法です。

▶ 定義

件/年

コメント

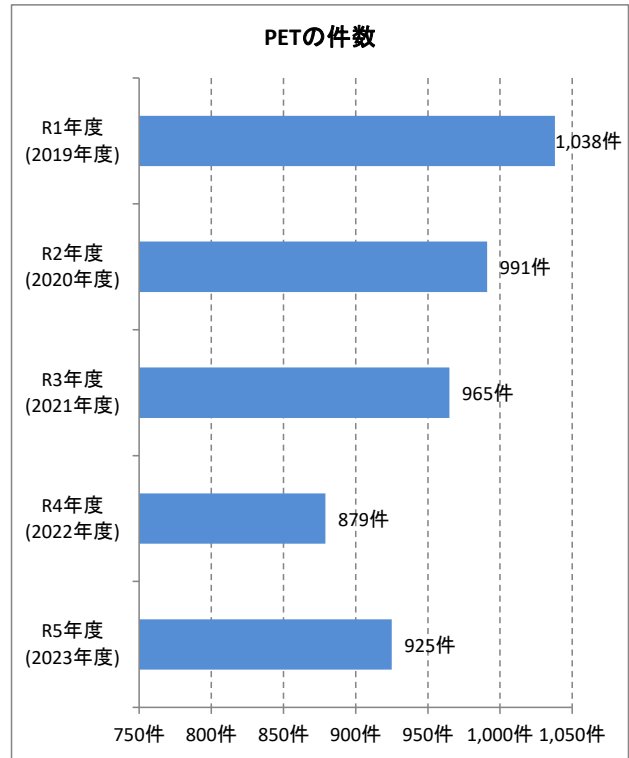
検査件数としては減少傾向ですが、これは検査の適応の変化に伴うものであり、癌診療に貢献していることには変わりないと考えます。

算式

件数

単位

件



甲状腺癌のI131内用治療件数

▶ 項目の解説

甲状腺癌の全摘術後の治療法です。県内では事実上、大学のみで行える治療であり、甲状腺癌の治療に大学病院が貢献している指標の一つと考えます。

▶ 定義

件/年

コメント

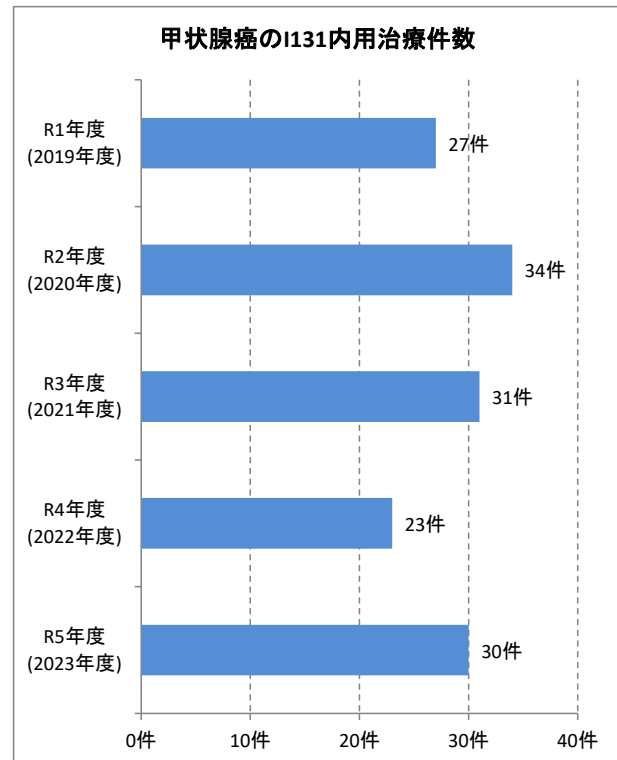
分子標的薬の開発などにより治療適応にも変化があります。しかし、県内では大学病院でしか行えない治療であることには変わりなく、今後も宮崎県民の癌治療に貢献していきます。なお、薬剤の出荷停止の影響により件数が減少しています。

算式

件数

単位

件



2. 大学病院特有項目：放射線治療の件数

(大学病院しかでき難いものとしてIMRT, 全身照射などを含んで)

▶項目の解説

放射線治療は機能と形態を温存できる癌の治療法であり、IMRTは宮崎県内では大学病院を含め2施設のみで行える治療法です。放射線治療には高額な機器と極めて専門性の高い放射線治療専門医や放射線治療専門診療技師が必要です。放射線治療は癌治療には無くてはならない治療法ですので、施設の充実度も反映する指標と考えます。

▶定義

件/年

コメント

放射線治療は厳しい管理の下で行われる治療であり、治療医や検査技師、看護師などが癌患者さんと直接対話を行いながら、予定通りに治療を行い治療効果を高めています。

放射線治療ガイドラインの改定により治療期間の短縮、照射回数の減少化が進んでおり、以前に比べると照射件数が少なく見えますが、IMRTの件数が大幅に増加しています。IMRTは治療前計画に相当な時間を費やすため、放射線治療専門医1名での対応としては非常に多い件数の対応となっています。

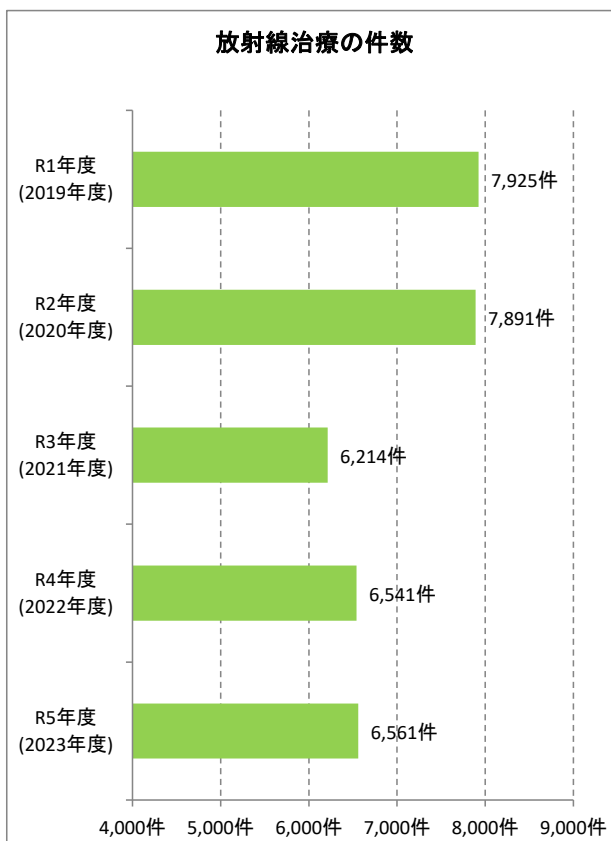
算式

件数

単位

件

放射線治療の件数



IVR

▶項目の解説

IVRは画像診断技術を応用した手術であり、IVR単独で効果を得るものだけではなく、内科的・外科的治療をサポートする治療まで応用範囲はとて広いです。外傷患者も含め、多くの診療科の治療のリレーにより命を繋ぐ症例も多く、各診療科の技術レベルが高い大学病院においてはIVRは必要な治療です。

▶定義

1年間に放射線科IVR医が施行したIVR症例件数です。

コメント

緊急症例を含め、多種類のIVRを行っています。他大学と比較しても、種類・件数ともに多く、特に、緊急症例に関しては大学病院では例を見ない件数にほぼ24時間対応しています。

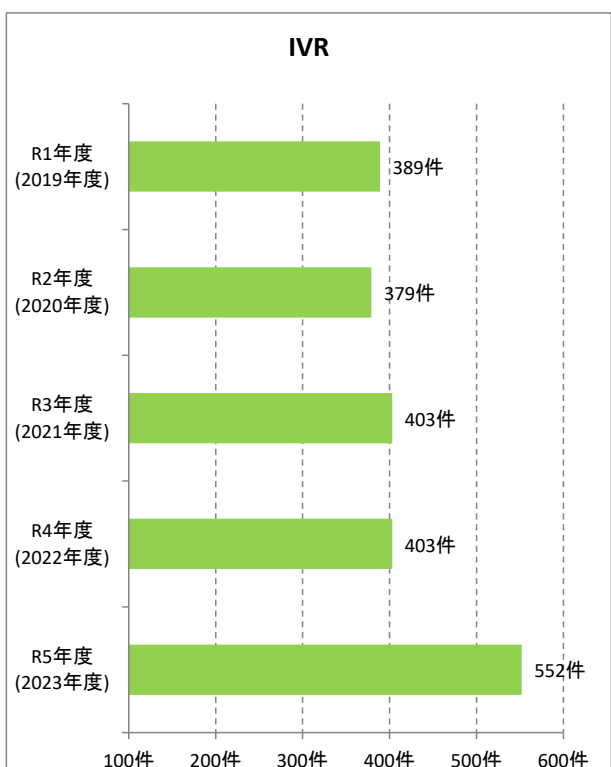
算式

1年間のIVR施行件数

単位

件

IVR



麻酔科

1. 一般的項目： 麻酔科管理症例数

▶ 項目の解説

手術室で麻酔科医がかけた麻酔症例数です。年々増加しています。

▶ 定義

年間の麻酔科管理手術症例数です。

コメント

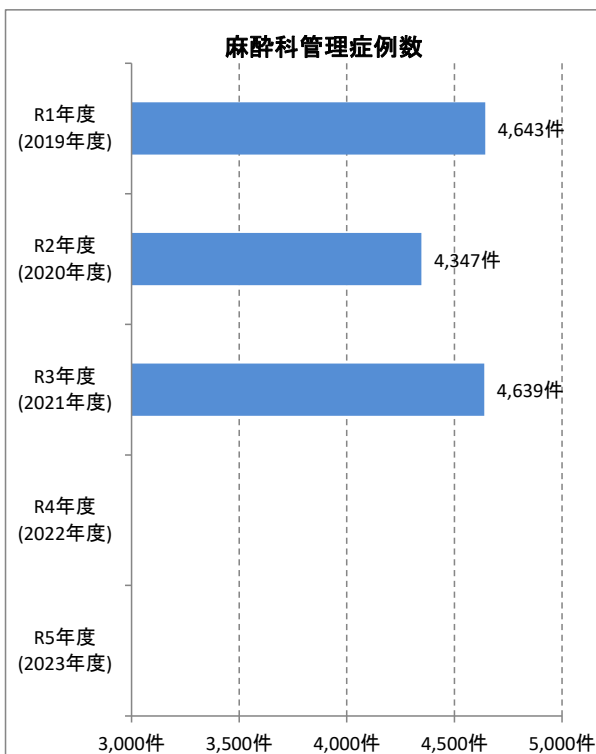
近年、症例数は4,500前後で安定しています。

算式

年間の麻酔科管理の手術症例数

単位

件



2. 大学病院特有項目： ペインクリニック外来延べ患者数

▶ 項目の解説

ペインクリニックを受診した患者さんの数です。難治性疼痛に罹患した患者さんが多く受診します。

▶ 定義

年間のペイン外来受診者数です。

コメント

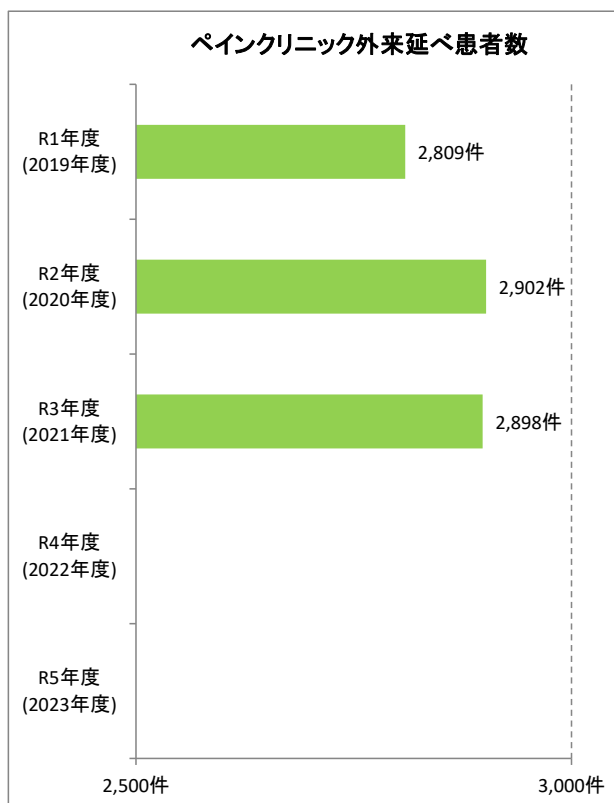
外来受診のみならず、透視下神経ブロックや入院での持続硬膜外鎮痛等も行っています。人員不足、やや症例数が減少傾向です。

算式

延べ患者数

単位

件



1. 一般的項目： 脳血管内治療件数

▶ 項目の解説

脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、腫瘍栄養動脈塞栓術等に留まらず、近年では脳動脈瘤コイル塞栓術や血栓除去術などにおいても脳血管内治療の守備範囲が拡大しており、アクティビティを示す指標となり得るため。

▶ 定義

脳血管内治療により治療を受けた件数

コメント

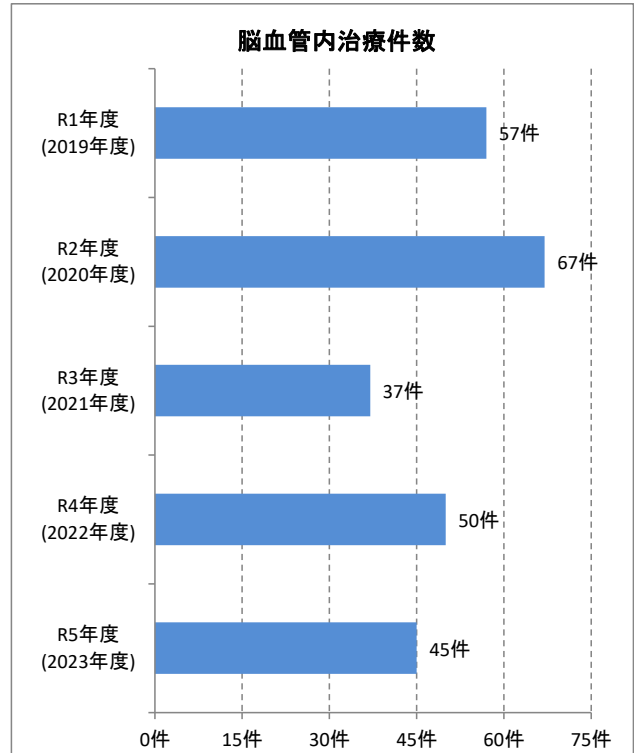
脳血管内治療学会認定指導医・専門医の存在する宮崎県唯一の脳血管内治療研修施設として機能しており、治療のみならず専門医育成・教育も実施しております。新規デバイスの導入も積極的に行っております。

算式

延べ患者数

単位

件



頭蓋内外血管吻合術

▶ 項目の解説

モヤモヤ病や脳梗塞症例など、慢性的な脳血流障害を来す疾患に対して、浅側頭動脈などの頭蓋外血管と、中大脳動脈などの頭蓋内血管を吻合する手術が、将来の脳梗塞発症を防ぐ効果的な治療法であることが分かっています。

脳卒中診療のアクティビティを示す指標の一つと考えられます。

▶ 定義

年間の頭蓋内外血管吻合術を受けた患者数

コメント

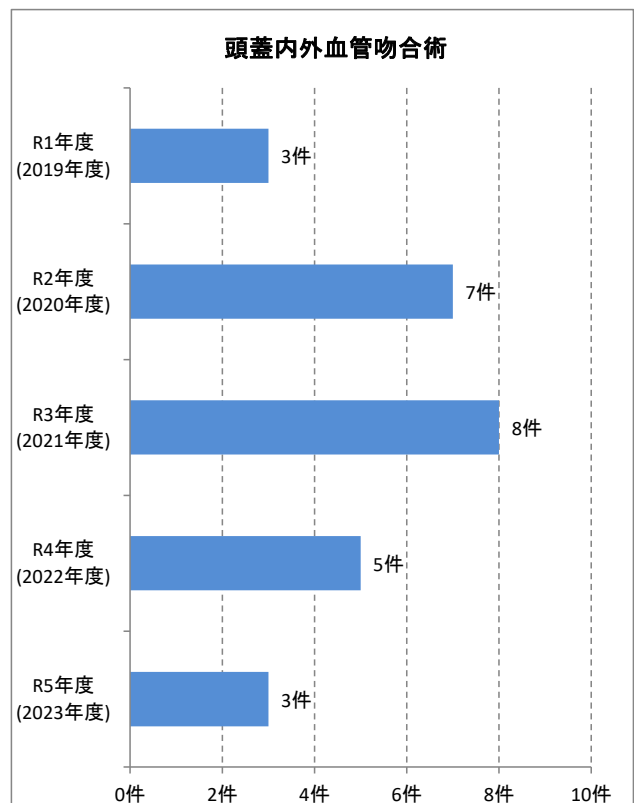
これまでは、ほとんど治療が行われておりませんでした。今後は患者数を増やすと共に、日本脳卒中の外科学会技術認定医の育成にも関わっていきます。

算式

延べ患者数

単位

件



2. 大学病院特有項目:

ナビゲーションや電気生理モニターを用いた脳腫瘍の手術件数

▶ 項目の解説

脳腫瘍は、脳内に発生し、周囲脳組織に浸潤する性格をもつタイプと脳外の脳神経、下垂体、髄膜より発生し脳を圧排しながら発育するタイプの2つに分けられます。

前者は、手術のみでは治癒は得られず、放射線・化学療法を含めた集学的治療を必要とします。

一方、後者では摘出術により治癒が得られる可能性があります。そのためには各種手術支援装置を用いてより安全に摘出する必要があります。

従って、脳腫瘍の手術は、十分な手術体制を整え、かつ適切な後療法を行える大学病院が中心とならざるを得ません。

この手術数は、脳神経外科においてスタッフと設備の充実を同時に評価しうる指標の1つです。

▶ 定義

年間の脳腫瘍に対する手術を受けた患者数です。

コメント

平成21年、22年においては、全国の脳神経外科を有する施設中、40位前後の脳腫瘍手術数です(朝日新聞による)。これは、年々増加傾向にあり、さらなる件数の増加、治療成績の向上に努めています。

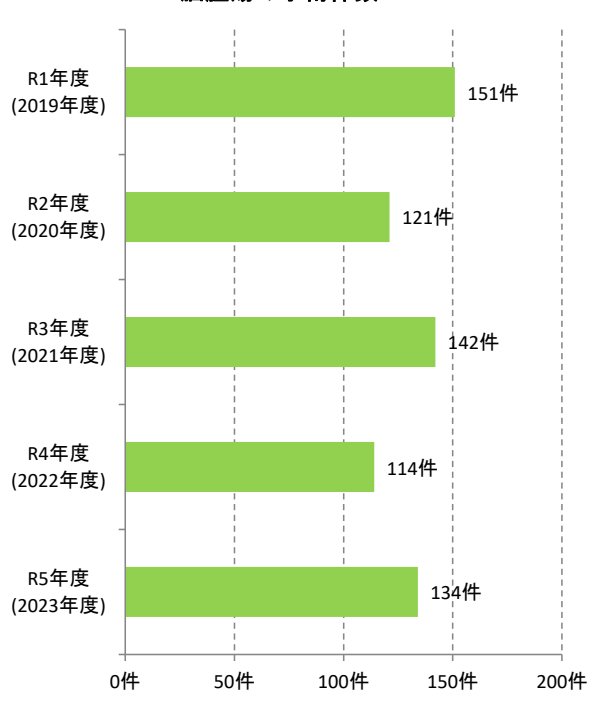
算式

延べ患者数

単位

件

ナビゲーションや電気生理モニターを用いた脳腫瘍の手術件数



2. 大学病院特有項目:

脳腫瘍の遺伝子解析

▶ 項目の解説

脳腫瘍の診断、治療において、遺伝子解析は必須事項となっています。十分な解析体制を築くことは、世界標準の治療を行う上で欠くことが出来ません。

▶ 定義

遺伝子解析症例

コメント

遺伝子解析結果を用いた正確な診断と、適切な治療が実行されています。

また、WHO2021診断基準改訂に対応し診断を進めています。

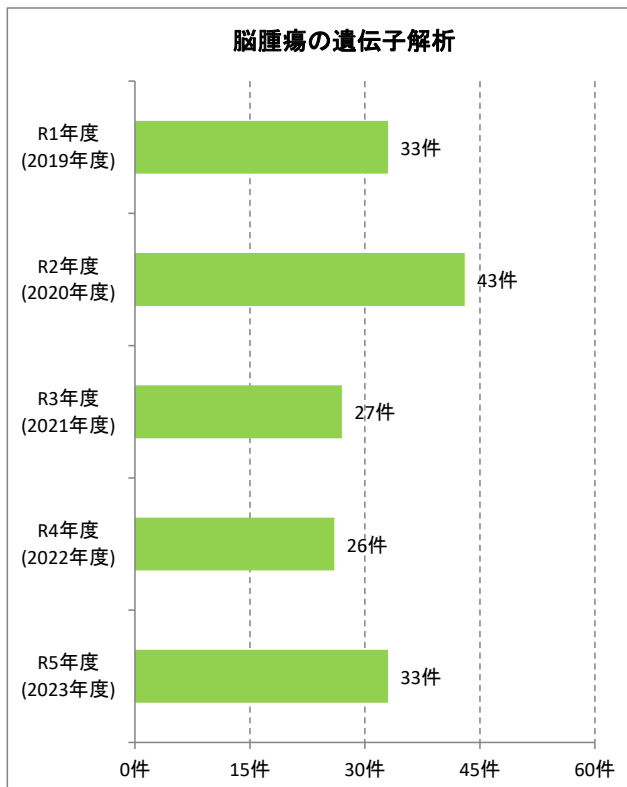
算式

延べ患者数

単位

件

脳腫瘍の遺伝子解析



フローダイバーターを用いた脳動脈瘤治療(症例数)

▶ 項目の解説

通常のクリッピング術や瘤内コイル塞栓術で治療困難な大型巨大脳動脈瘤に対して、フローダイバーターステントを用いた脳血管内治療が可能となりました。

▶ 定義

年間の手術件数

コメント

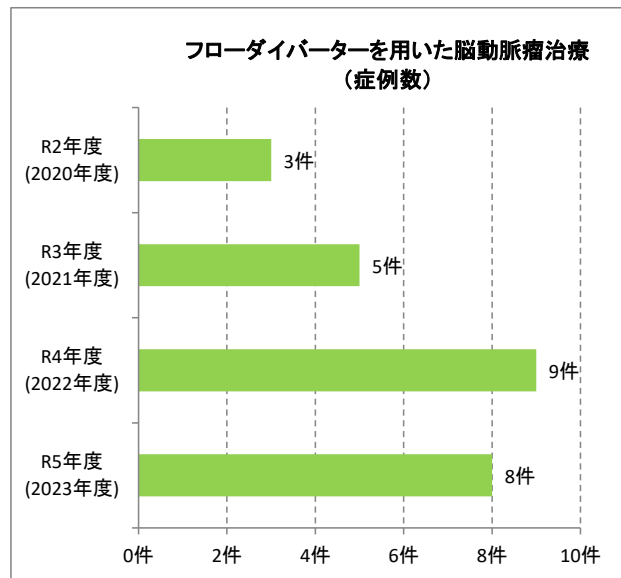
認可されたフローダイバーターの種類も増え、また治療適応も後頭蓋窩動脈瘤も含むように拡大され、年々症例数が増加しつつあります。

算式

手術件数

単位

件



1. 一般的項目： 総手術件数

▶ 項目の解説

顎顔面領域の手術では、顔面の審美性、緊密な咬合接触、および咀嚼・嚥下機能を考慮して処置を行う必要があります。歯科口腔外科専門医と矯正歯科専門医が常勤し、一体となって診断・治療に当たりますので、質の高い治療が可能です。

▶ 定義

年間の全身麻酔下手術件数

コメント

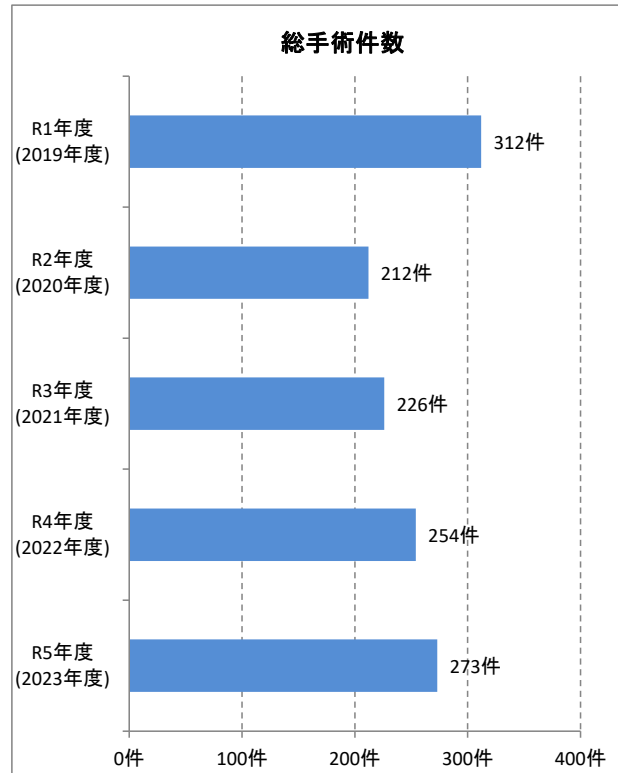
新型コロナウイルス感染症の影響が減り、手術件数は増加しております。高度医療技術を要する手術に関しては一定の件数を保っています。

算式

手術件数

単位

件



口腔がん手術件数

▶ 項目の解説

口腔がんは手術が治療の主体となります。

▶ 定義

年間の口腔がんに対する全身麻酔下手術施行件数です。

コメント

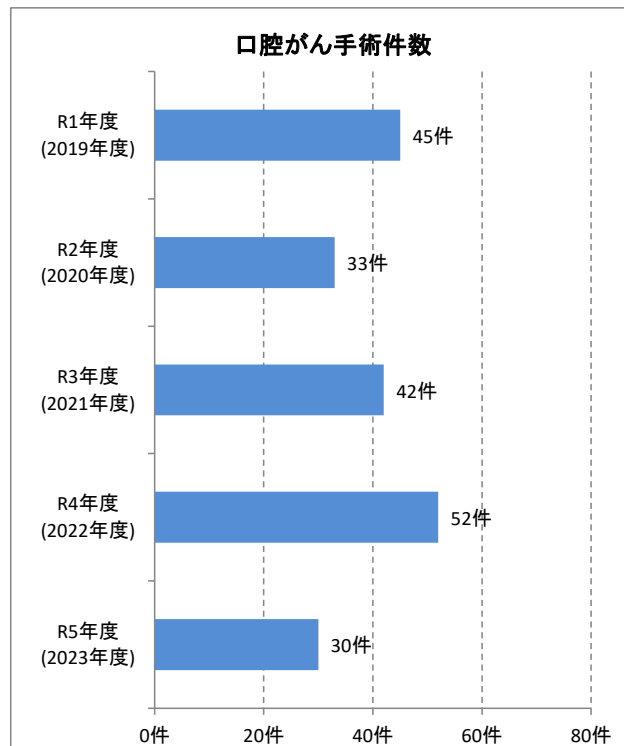
一定の件数を保っています。

算式

手術件数

単位

件



口唇口蓋裂・その他先天疾患・顎変形症症例に対する手術件数

▶ 項目の解説

当院は障害者自立支援医療(育成医療)、顎口腔機能診断の指定医療機関です。口唇口蓋裂、41の先天疾患、および下顎前突などの顎変形症の手術に健康保険が適応されます。

▶ 定義

口唇口蓋裂・その他先天疾患・顎変形症に対する全身麻酔下手術施行件数です

コメント

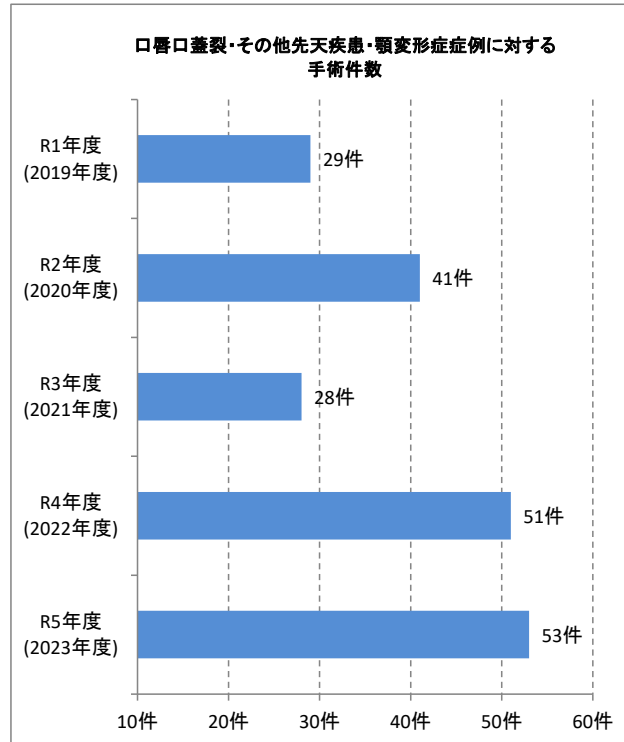
一定の件数を保っています。

算式

手術件数

単位

件



周術期口腔管理

▶ 項目の解説

全身麻酔の手術や化学療法、放射線治療では、重度の口内炎や歯周炎、口腔乾燥を生じ、肺炎や感染のため、入院の主目的である治療自体に支障をきたすことがあります。

このため、平成24年度から周術期の口腔管理に保険が導入されました。悪性腫瘍の手術、化学療法・放射線療法、心臓血管外科手術、臓器移植などの前後に、感染源となる歯の治療や抜歯、口腔衛生管理を行います。

▶ 定義

延べ件数/年

コメント

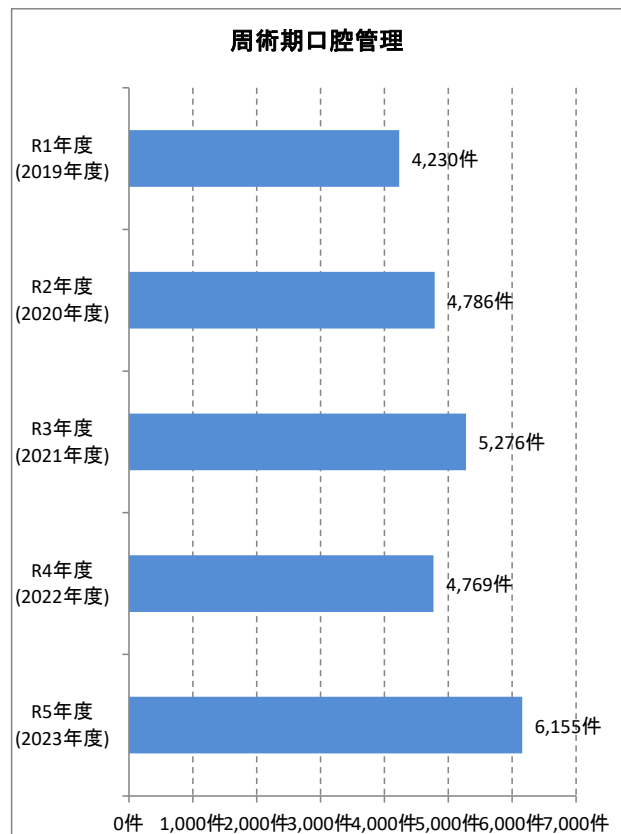
平成24年度から周術期の口腔管理に保険が導入され、近年では外来にてスクリーニングを行い、適応患者の抽出や主科における治療に際しての口腔ケアの必要性・重要性の患者周知および口腔衛生環境向上に努めています。のべ患者数は年々増加しています。

算式

延べ患者数

単位

件



広範囲顎欠損支持型装置埋入手術

▶ 項目の解説

病変や手術等で失った咀嚼機能をインプラントを用いて再建する手術です。

▶ 定義

1年度あたりの全身麻酔下で行った手術件数です。

コメント

顎骨欠損による咀嚼機能障害ではQOLが低下します。骨性再建およびインプラント補綴を行うことで咬合再建によるQOL向上を図ります。症例は一定の件数を保っています。

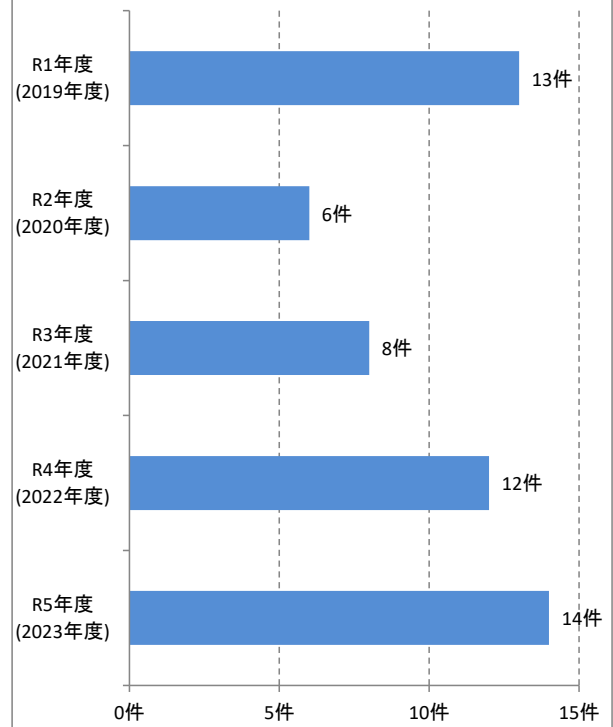
算式

手術件数

単位

件

広範囲顎欠損支持型装置埋入手術



顎口腔再建手術

▶ 項目の解説

病変や手術等で失った顎口腔領域の組織を遊離皮弁、有形皮弁を用いて再建する手術です。

▶ 定義

1年度あたりの全身麻酔下で行った手術件数です。

コメント

顎口腔領域の欠損は、審美性や機能性を失いQOLが低下します。審美障害、機能障害を最小限にとどめ日常生活に支障をきたさぬように再建手術を行います。症例は一定の件数を保っています。

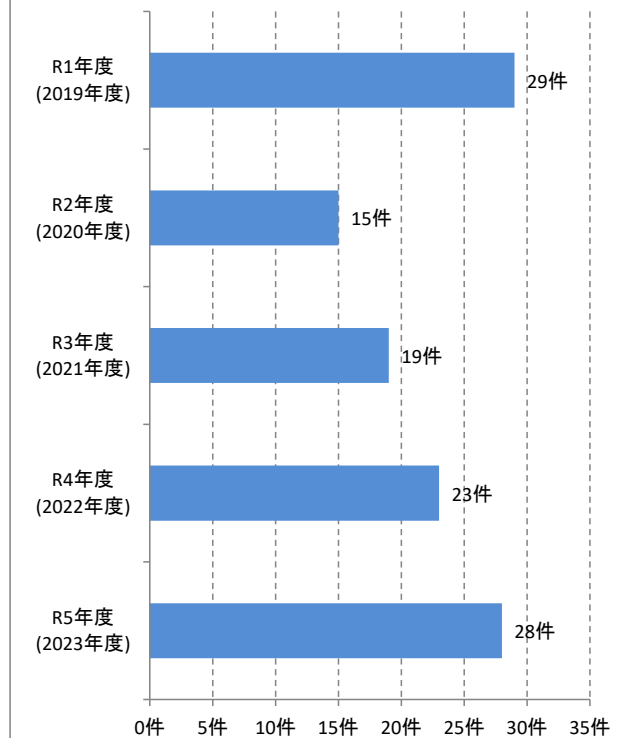
算式

手術件数

単位

件

顎口腔再建手術



顎骨骨折手術

▶ 項目の解説

顎骨骨折に対する観血的整復固定術(プレート固定)です。

▶ 定義

1年度あたりの全身麻酔下で行った手術件数です。

コメント

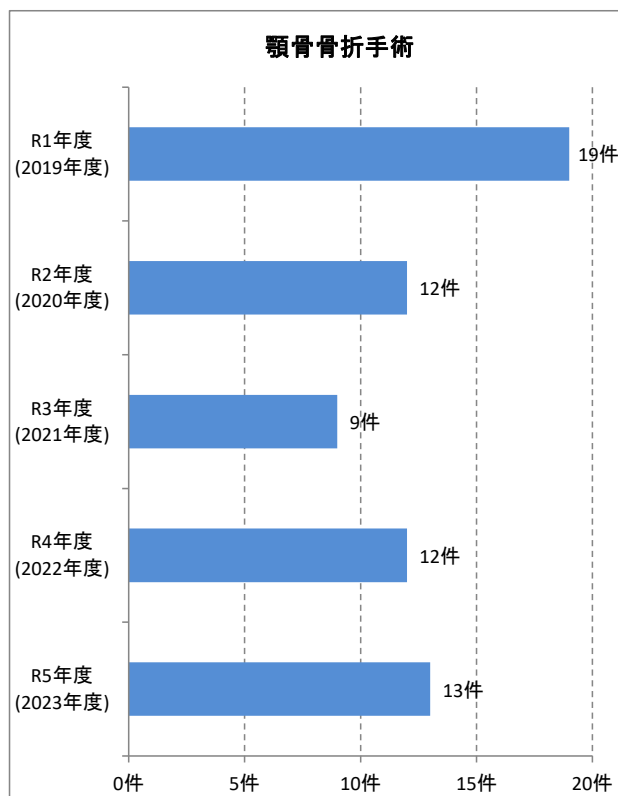
顎骨骨折は受傷から治療までの期間が短いほど治療成績は向上します。当科では原則、受診日に手術を施行しております。迅速な手術は予後を改善させ、早期退院、社会復帰を実現します。症例は一定の件数を保っています。

算式

手術件数

単位

件



2. 大学病院特有項目： 病理組織診断

▶ 項目の解説

体の一部(生検診断)または手術によって採取された臓器(手術材料を用いた病理診断)を、顕微鏡で観察し、癌か癌でないかなどを最終的に診断することを病理組織診断とします。採取された組織は、ホルマリンで固定し、さらにそこからガラス標本を作製するため、病理診断は通常1-2週間程度かかります。腫瘍の場合、病理組織標本を用いて、遺伝子異常を検索し、抗癌剤の抗癌剤の選択が行われます。腫瘍以外の感染症、膠原病、腎臓病などにも行われます。

▶ 定義

病理組織診断は、病気の原因、発生機序の解明や病気の診断を確定し、病理診断をもとに治療法などが決定されていきます。特に悪性腫瘍の治療には病理組織診断が必須になります。

コメント

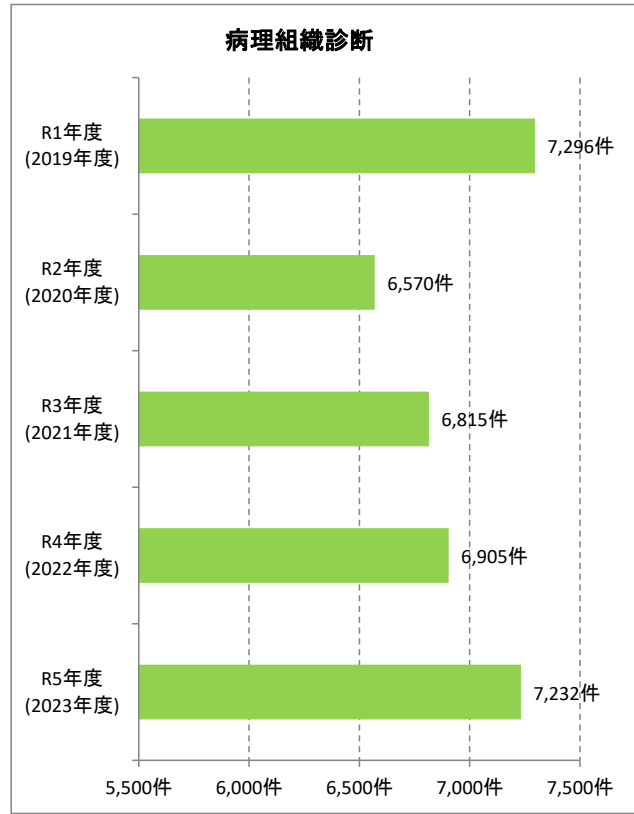
全ての標本について、少なくとも2名以上の病理医が診断を行い、診断精度向上に努めています。免疫組織化学については、大学病院という特性を生かして多種の抗体を整備しており、多くの希少症例についても自施設での診断が可能です。その上で診断困難例については、日本病理学会・国立がんセンター等を介して、各臓器のスペシャリストへコンサルトしています。病理診断は年々増加傾向にありますが、基本的には検体受付から2週間内に診断を返却しています。

算式

延べ件数

単位

件



術中組織診断

▶ 項目の解説

手術中に標本作製し、診断する特殊な病理診断です。通常は数日かかる標本作製を、採取された組織を凍らせて作製するので、特殊な機械、高度な標本作製の技術が必要となります。短時間で、特殊な方法で標本作製するので、通常の病理組織標本よりも診断が難しくなります。手術前に生検ができない脳腫瘍、卵巣腫瘍、開腹しないと採取できない部位の癌の広がりなどを判断します。

▶ 定義

手術前に採取できない部位(脳や卵巣)、手術中に予測していなかった所見があった場合は、術中病理が必要となり、病理診断によって、手術の方法や切除範囲が決定されます。

コメント

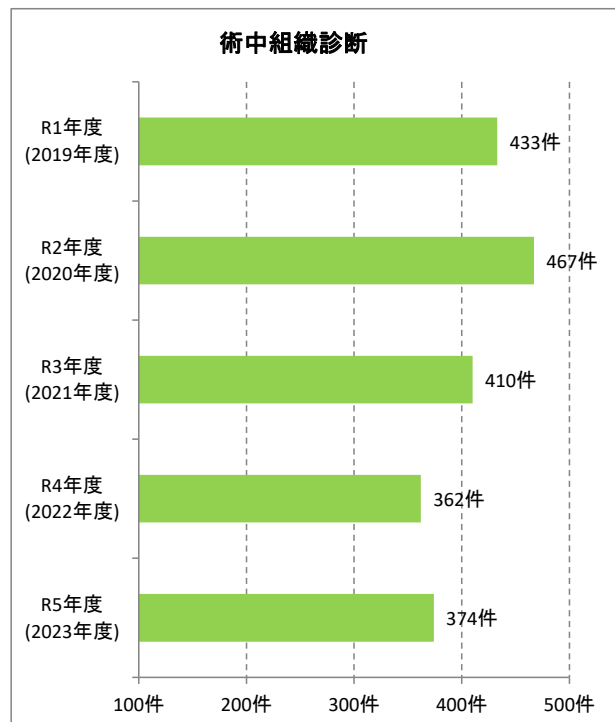
1症例20-30分程度で標本作製から診断報告までを行っています。2名以上の病理医が診断することで、正確な診断を心掛けています。事前受付が基本ですが、術前に術中組織診断は必要でないと評価されていたものの、手術中に必要と判断された症例や、緊急手術の症例についても、可能な限り対応しています。時間外についても同様で、対応可能であれば請け負っています。症例によっては術中細胞診標本も同時に作製し、診断の精度向上に役立っています。

算式

延べ件数

単位

件



細胞診診断

▶ 項目の解説

組織から剥離、または尿や分泌液などに浮遊している細胞を回収し、顕微鏡で観察し、主に腫瘍または腫瘍が疑われるかどうかを診断します。婦人科領域では子宮頸管の擦過物、呼吸器では気管支擦過法、泌尿器では尿を遠心分離器で沈渣をとり、検査します。その他乳腺、甲状腺、膵臓、リンパ節からも細胞を採取し、検査が行われます。組織検査と比べると、患者様の痛みや危険性も少ない検査になります。

▶ 定義

細胞診診断は一般には細胞診と略称されています。癌の早期発見や早期診断を目的に、人体の細胞の一部を採取し形態学的基準に基づき診断します。

コメント

自施設で細胞診診断を行うことにより、病理組織診断の情報とあわせて、病理学的な総合判断が可能となっています。当院では、細胞をすぐに固定する液状検体細胞診を積極的に利用し、質の高い診断に努めています。現在はベッドサイドでの細胞診(オンサイト細胞診)が増え、早期の診断や確実な検体採取の確認になり、不必要な再検査等が減り、患者様の負担の軽減にもなっています。

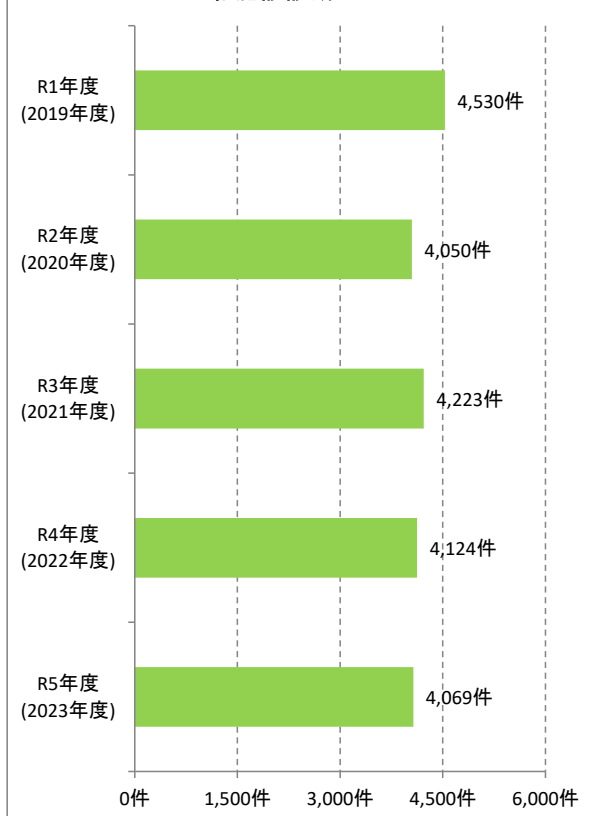
算式

延べ件数

単位

件

細胞診診断



CPC(剖検症例臨床病理検討会)の検討症例率

▶ 項目の解説

CPC(剖検症例臨床病理検討会)とは、病理解剖が行われた症例を対象とし、臨床診断や診療のプロセスの妥当性を、臨床主治医および担当診療科医と病理医が一同に話し討する症例検討会です。

診療行為を見直し、今後の治療に役立てる取り組みを評価する指標になります。

単に症例のまとめを報告するに留まらず、臨床診断・治療から死亡に至るプロセスを体系的に網羅し、大学病院の医療の質を向上させ、医学生、研修生の教育にも大いに寄与します。

▶ 定義

1年間のCPC(臨床病理検討会)の開催数を剖検数で除した割合です。学外の症例についても、担当医師を招いて実施した症例は検討症例数に含めます。

コメント

当院では、基本的に病理解剖されたすべての症例においてCPCを開催しています。臨床診断、治療法を病理所見から再検討することにより、病院全体の医療の質の向上を目指しています。また、臨床研修医、医学部学生の教育にも寄与しています。院内症例だけでなく、他施設からの受託解剖も行って、それらも全例CPCを行っています。

詳しい病態が明らかではないCovid 19感染症例や、マダニによるSFTSなどの解剖では、病態の解明にも貢献しています。

算式

分子:CPC開催数
分母:病理解剖数

単位

%

CPC検討症例率

